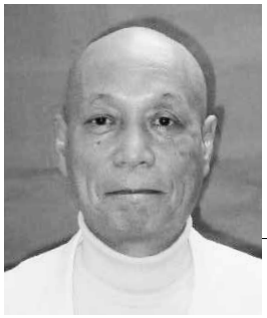
診療年報

第１号
(2011年)

北九州市立八幡病院

北九州市立八幡病院



記念すべき市立八幡病院「診療年報第1号」

病院長　市川 光太郎

市立病院群業績集が市立病院の譲渡等で実質二病院になったことで、各々の病院で独自に業績集を作成することが平成 23 年に決まった。このことにより、平成 23 年業績を診療年報第 1 号として平成 24 年に発刊する運びとなったことはある意味で市立八幡病院の将来的単独飛行を指すものとしても受け取れる。医業業績はもちろん医療業績も単独飛行をしていくためには、しっかりした基盤を作り続けていかねばならない。

病院という大きな組織を古くて新しいものとしていくには、日々の生活の中で、繰り返しの「気付き」を活かせるか否かにかかっていると言い換えられる。日々の暮らしの中、気付けば勿体ないことは沢山あるといえるし、次に活かされることなく忘れてしまわれる失敗なども山ほどある。このような惜しい現象を大事にすることが今、全スタッフに求められている。このことは言い換えれば、「良質なクレーマー」の注文とも言えるであろう。良質なクレーマーの根底にあるのは「言うことで伝えることで、良くなって、みんなに喜んで貰えるだろう」という心意気だ。すなわち、われわれ医療者の仕事はサービス業の一面がきわめて大きいことを考えれば、まさしく「良くなって、みんなに喜んで貰える」が一番である。これが医療側に存在してはじめて患者家族も喜びや感謝の気持ちを伝えてくれるであろう。「伝える」は「人に云う」であり、「人に言う」は「信じる」となる。伝えることが信頼関係の礎石であることを考えれば、もっともっとお互いの気持ちを大事にして、それを伝えていくことが必要である。このことは医療人同士も、医療人と患者・家族もまさに同じ理屈である。

この診療年報が医療人同士の信頼関係構築の 1 つのスキルになること、職責の異なる職種の集まりの中で利用する患者・家族のためという同じ切り口でのお互いの職責や頑張りを知る情報誌になること、しいては患者家族のためになり、「古くて新しい組織」に変わる礎石になることを願っています。

目次

CONTENTS

院長あいさつ

1. 病院概要

基本理念・基本方針…… 1
組織図…… 2
職員名簿…… 3

2. 医療分析

全体的統計…… 9

3. クローズアップ

東日本大震災におけるDMATおよびJMAT医療支援に参加して
・DMAT活動報告 ……13
・東日本大震災におけるJMAT医療支援に参加して……13
・小児救急医学会派遣報告……14
災害医療研修センターと広域災害時の医療救護（北九州モデル）……16
消化器・肝臓病センター……17
心大血管リハビリテーション……18
医療連携会……19
認定看護師の活動報告
・小児救急看護認定看護師活動について……20
・小児救急看護認定看護師活動について……21
・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師活動について……22
・感染管理認定看護師活動について……23

4. 業績集

2011年 八幡病院業績集 ……25

5. 委員会報告

ICT委員会……75
リスクマネジメント部会……76
クリニカルパス委員会……78
医療連携室運営委員会……79
輸血療法委員会……80
褥瘡対策委員会……81
センター連絡会議……82
災害対策チーム委員会……83
NST運営委員会 ……84
臓器提供のための対応委員会……85
リハビリテーション部門委員会……86
内視鏡部門委員会……87
がん化学療法委員会……88
広報委員会……89

6. 各種学会指導医・専門医・認定医一覧 …… 91

7. 編集後記 …… 95

1

病院概要

基本理念・基本方針

基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。

2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。

3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。

4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。

5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

組織図

北九州市立八幡病院　組織図
市川 光太郎 院長
事務局
中野 好生 事務局長
岩田 光正 経営企画課長
池田 稔 救急事務係長（兼務）
近藤 實 未収金対策担当係長
池田 稔 医事係長 職員
諸熊 武史 企画係長 職員
中野 好生 管理課長（事務取扱）
渡辺 響子 来客管理係長 職員
石本 弘一 庶務係長 職員
阿比留 悦子 地域医療連携推進担当課長 社会福祉士
看護科
草場 惠子 看護部長
崎田 幾子 総看護師長
古川 惠子 副総看護師長（医療安全管理担当課長）
阿比留 悦子 副総看護師長（事務取扱）
高原 文子 副総看護師長
吉國 佐和子 副総看護師長
林 和子 副総看護師長
看護師長 職員
太崎 博美 副院長
放射線科 許斐 稔 総技師長 技師長 担当係長 職員
薬剤科 長井 惠子 薬剤部長 副部長 担当係長 職員
臨床検査科 宮本 征美 総技師長 技師長 担当係長 職員
内科 栗屋 幸一 主任部長 部長 3名 副部長以下 2名
循環器内科 原田 敬 主任部長 部長 2名 副部長以下 3名
精神科 白石 康子 主任部長
皮膚科 藤野 雅世 主任部長
歯科 岡上 明正 主任部長
放射線科 神崎 修一 主任部長 部長 2名
伊藤 重彦 副院長
小児科 神薗 淳司 主任部長
天本 正乃 主任部長
部長 7名 副部長以下 7名 後期研修医（レジデント） 5名
外科 木戸川 秀生 主任部長
岡本 好司 主任部長
部長 3名 副部長以下 2名
救急科 井上 征雄 主任部長 部長 1名
呼吸器外科 井上 征雄 主任部長（兼務）
野口 雅夫 副院長
整形外科 辻 正二 主任部長 部長 2名 副部長以下 1名
理学療法士長 理学療法士等
脳神経外科 越智 章 主任部長 部長 1名
形成外科 田崎 幸博 主任部長 副部長以下 2名
泌尿器科 森下 直由 主任部長 部長 1名
産婦人科 王 志洪 主任部長
眼科 武末 佳子 主任部長 視能訓練士
耳鼻咽喉科 麻生 裕明 主任部長
麻酔科 金色 正広 主任部長 部長 2名
臨床研修医 二年次研修医 2名

職員名簿

職名	氏名
院長	市川光太郎
副院長	太﨑博美
副院長	伊藤重彦
副院長	野口雅夫
●内科	
主任部長	粟屋幸一
部長	末永章人
部長	吉田有吾
部長	白土睦人
副部長	今村香奈子
	小住乃理子
●循環器内科	
主任部長	原田敬
部長	田中正哉
部長	小住清志
	高橋正雄
	上野啓通
	屏壮史
●整形外科	
主任部長	辻正二
部長	乗松崇裕
部長	野崎義宏
	太田真悟
●外科	
主任部長	岡本好司
主任部長	木戸川秀生
部長	山吉隆友
部長	新山新
部長	野口純也
副部長	馬場雅之
	渋谷亜矢子
●呼吸器外科	
（部長兼務）	井上征雄
●救急科	
主任部長	井上征雄
部長	岩永充人

職名	氏名
●小児科	
主任部長	天本正乃
主任部長	神薗淳司
部長	今村徳夫
部長	石橋紳作
部長	山根浩昌
部長	牧隆司
部長	金奉吉
部長	松島卓哉
部長	西野裕
副部長	富田芳江
副部長	富田一郎
副部長	八坂龍広
副部長	小野佳代
副部長	小野友輔
副部長	志村紀彰
副部長	山本剛士
レジデント	竹井寛和
レジデント	北古味りか
レジデント	南川将吾
レジデント	竹井真理
レジデント	三浦義文
●形成外科	
主任部長	田崎幸博
副部長	李龍二
副部長	北川恵理
●脳神経外科	
主任部長	越智章
部長	野田満
●皮膚科	
主任部長	藤野雅世
●泌尿器科	
主任部長	森下直由
部長	岡田英一郎
●産婦人科	
主任部長	王志洪

職名	氏名
●眼科	
主任部長	武末佳子
●耳鼻咽喉科	
主任部長	麻生裕明
●放射線科	
主任部長	神崎修一
部長	今福義博
部長	今村紹美
●麻酔科	
主任部長	金色正広
部長	石田昌一
部長	佐野治彦
●歯科	
主任部長	岡上明正
●精神科	
主任部長	白石康子
●初期研修医	
研修医	古野郁太郎
研修医	小西勇輝
●薬剤科	
部長	長井恵子
副部長	山下正義
薬剤担当係長	坂本佳子
薬剤担当係長	橋口靖
薬剤担当係長	末吉宏成
主任	田﨑奈緒子
主任	米倉紀子
主任	原田桂作
薬剤師	山本朗子
薬剤師	福永竜一
薬剤師	中村祥子
薬剤師	姫野英二
薬剤師	水上靖子
薬剤師	平林友紀子
薬剤師	宮野佳子
薬剤師	宗吉泉

平成 24 年 5 月 1 日現在

職員名簿

職名	氏名
薬剤師	毛利由佳
●臨床検査科	
総技師長	宮本征美
技師長	中村尚子
臨床検査担当係長	松本誠也
臨床検査担当係長	久野淳二
主任	松山郁子
主任	太田秀一
主任	渡邉和枝
主任	荒木猛
臨床検査技師	恵良美由紀
臨床検査技師	長田昌美
臨床検査技師	吉田裕見子
臨床検査技師	島浩司
臨床検査技師	三嶋里恵
臨床検査技師	新山のぞみ
臨床検査技師	實藤清美
臨床検査技師	栗田恵利
臨床検査技師	近藤嗣通
●放射線科	
総技師長	許斐稔
技師長	荻野和寿
技師長	山下三樹
放射線担当係長	谷口和博
放射線担当係長	高森泰行
主任	大庭正章
主任	大隅政治
主任	島田章弘
主任	辰本直久
主任	清水艶鳴
主任	中山敏文
診療放射線技師	入江佳世
診療放射線技師	満園裕樹
診療放射線技師	森山有美
診療放射線技師	佐竹美智子
診療放射線技師	亀井良子

職名	氏名
診療放射線技師	九町章博
診療放射線技師	宗吉佑樹
●整形外科	
理学療法士長	井上裕子
主任	和才千世子
主任	長野正治
理学療法士	須崎省二
理学療法士	砂山明生
作業療法士	菖蒲優子
●眼科	
視能訓練士	大西祥子
●看護科	
看護部長	草場恵子
総看護師長	崎田幾子
副総看護師長	林和子
副総看護師長	吉國佐和子
副総看護師長	高原文子
副総看護師長 (事務取扱)	阿比留悦子
副総看護師長 (医療安全管理担当課長)	古川恵子
主任 (感染管理認定看護師)	中川祐子
○外来	
看護師長	坊野美津子
主任	磨田かおる
主任	木崎早苗
主任	石井裕子
主任	杉田奈都子
看護師	松永直美
看護師	川原恵美子
看護師	佐々木知子
看護師	小椋裕美
看護師	白石玉枝
看護師	田中美子
看護師	武谷貴代美
看護師	山崎悦子
看護師	永松真由美
看護師	藤井あい

職名	氏名
看護師	松本由紀
○救急部	
看護師長	酒井文子
看護師長	越智美加
看護師長	木村律子
看護師長	池田かおる
看護師長	藤田寿美子
看護師長	関谷恵美子
看護師長	内田美和
看護師長	中村幸恵
看護師長	吉見明子
看護師長	佐藤奈々絵
看護師長 (小児救急看護認定看護師)	梶原多恵
看護師長	大塚由美子
看護師長	松嶋久美子
主任	隈本佐智子
主任	吉武知美
主任	橋本真美
看護師	三好博子
看護師	岩下律子
看護師	寺地亜希
看護師	江藤扶紀
看護師	安部環
看護師	井上里美
看護師	三井あゆみ
看護師	入江弓子
看護師	倉石美紀
看護師	伊東知佐子
看護師	渡辺恭子
看護師	飯森美由紀
看護師	小野早央里
看護師	古賀隆太
看護師	本山由佳
○手術室	
看護師長	高澤浩美
主任	能丸敏子

平成 24 年 5 月 1 日現在

職名	氏名
主任	隈部美由紀
主任	佐藤旬子
看護師	小玉久美
看護師	久家憲子
看護師	江﨑亜以
看護師	木下美和
看護師	鞭馬友美
看護師	中村佳代
看護師	杉本佳菜
看護師	田中愛実
看護師	三島照枝
看護師	武吉祐輔
○中央材料室	
中央材料室担当係長	吉竹洋子
○西３階病棟	
看護師長	松本真由美
主任	南條育子
主任	林久恵
主任	伊村ときえ
主任	中川路敬子
看護師	山田千咲
看護師	松田ユリ
看護師	塩田輝美
看護師	越智千佳
看護師	濵田智美
看護師	福永聡
看護師	工合田千世
看護師	山之内妙子
看護師	島村美紀
看護師	野村美映子
看護師	丸野梨紗
○集中治療室（ICU)	
看護師長	兼田朋子
主任	小林和枝
主任	西田ゆかり
主任	小舟美穂

職名	氏名
主任	三渕浩子
主任	井筒隆博
看護師	梶田明美
看護師	尾垣美江
看護師	川﨑久美子
看護師	森永久美
看護師	土岐美穂
看護師	佐名木里英
看護師	高森雅子
看護師	石本晶
看護師	深田智美
看護師	金瑛華
看護師	山下亮
看護師	渡邊紘子
看護師	木原朋香
看護師	三浦華子
看護師	武内郁美
看護師	山本優子
看護師	園田法子
看護師	川本江美
○西４階病棟	
看護師長	原田かをる
主任	池田由美子
主任	川南幸子
主任	野上久美子
主任	藤波志生子
主任	髙田久子
主任	今村久里美
主任	田端明子
看護師	友松むつみ
看護師	島崎智江
看護師	中村由美子
看護師	岡村志保
看護師	上野真由美
看護師	坂本順子
看護師	飯田圭子

職名	氏名
看護師	須藤乃子
看護師	山下美代
看護師	古田恵美
看護師	上野聡子
看護師	光吉久美子
看護師	崎山由香理
看護師	海野由起
看護師	吉田智絵
看護師	石川紗愛
看護師	山田友美
看護師	石川祐子
看護師	森重優真
○東４階病棟	
看護師長	井生恭子
主任	合谷千歳
主任	原文枝
主任	森永加代子
主任	桑野雅恵
主任	松本敏江
主任	原京子
主任 （小児救急看護認定看護師）	橋本優子
看護師	梶原小百合
看護師	長田弘子
看護師	原田知代美
看護師	金屋美千代
看護師	吉田愛
看護師	吉川祐子
看護師	志賀玲花
看護師	村田寿美
看護師	津村礼子
看護師	宗育子
看護師	岩村智子
看護師	安永まゆみ
看護師	川原千恵美
看護師	荊尾景子
看護師	木下章子

平成 24 年 5 月 1 日現在

職員名簿

職名	氏名
看護師	小野 久美子
看護師	本 汐莉
看護師	永島 裕美
看護師	福田 麻美
看護師	杉久保 富子
看護師	井田 加代
○西５階病棟	
看護師長	後藤 弘美
主任	池田 みはる
主任	井上 裕美
主任	北村 都子
主任	勝間田 由美子
看護師	船原 美津子
看護師	栗田 寿美代
看護師	加藤 由華
看護師	吉田 晶子
看護師	矢野 美佑紀
看護師	岡本 裕美
看護師	柳 順也
看護師	村井 澄江
看護師	阿部 麻奈美
看護師	中川 正男
看護師	上岡 由美
○東５階病棟	
看護師長	肥後 廣美
主任	岡崎 優子
主任	山口 敦子
主任	山田 洋子
主任（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）	波多野 妙
看護師	北村 安妙
看護師	稲垣 久仁子
看護師	郷田 ありさ
看護師	足立 奈緒子
看護師	立岩 智子
看護師	山本 晶子

職名	氏名
看護師	工藤 智佳
看護師	中山 佳那
看護師	髙田 幸恵
看護師	鶴田 麻衣
看護師	小西 久代
看護師	下中 絵里
看護師	尾上 沙也香
看護師	刀根 喜美
看護師	花田 有実
看護師	安成 康介
看護師	行實 香代子
看護師	岩本 紗希
○西６階病棟	
看護師長	高本 秀美
主任	松野 京子
主任	藤川 唯智子
主任	岡村 生久乃
看護師	太田 美代子
看護師	内山 睦美
看護師	行比 知子
看護師	白井 愛
看護師	小村 晶
看護師	下薗 亜希子
看護師	藤嶋 寛子
看護師	大峯 佳奈
看護師	岡本 美沙
看護師	大山 元子
看護師	戸簾 妙子
看護師	松田 昌子
看護師	金沢 実咲
○東６階病棟	
看護師長	米澤 美穂子
主任	三好 綾子
主任	植田 啓子
主任	徳永 裕美

職名	氏名
主任	半田 和枝
主任	織田 真由美
主任	勝元 美佳
看護師	山下 仁美
看護師	河本 久美子
看護師	谷石 香津代
看護師	奥本 美由紀
看護師	田島 かおり
看護師	小谷 玲子
看護師	林内 久美子
看護師	中村 久美子
看護師	土田 光代
看護師	川﨑 美代子
看護師	内田 宏美
看護師	伊澤 奈緒
看護師	久保﨑 沙和
看護師	角田 直也
看護師	吉竹 重乃
看護師	松岡 フミ
看護師	長倉 寿江
看護師	前田 恵
●事務局	
事務局長	中野 好生
○管理課	
管理課長（事務取扱）	中野 好生
庶務係長	石本 弘一
庶務係員	木下 伸二
庶務係員	川崎 勝博
庶務係員	蓑田 圭祐
庶務係員	横田 真一郎
庶務係員	國重 明宏
栄養管理係長	渡辺 響子
管理栄養士	石坂 綾子
臨床工学技士	伊香元 裕
臨床工学技士	倉田 匠

平成 24 年 5 月 1 日現在

職名	氏　名	職名	氏　名	職名	氏　名
○経営企画課					
経営企画課長	岩　田　光　正				
地域医療連携推進担当課長	阿比留　悦　子				
企画係長	諸　熊　武　史				
企画係員	百　武　洋　介				
企画係員	小　倉　秀　樹				
企画係員	原　　泉				
医事係長	池　田　　稔				
未収金対策担当係長	近　藤　　實				
医事係員	中　山　翔　太				
医事係員	藤　井　圭　吾				
医事係員	村　上　大　輔				
医事係員	西　原　慎一朗				
救急事務係長（兼務）	池　田　　稔				

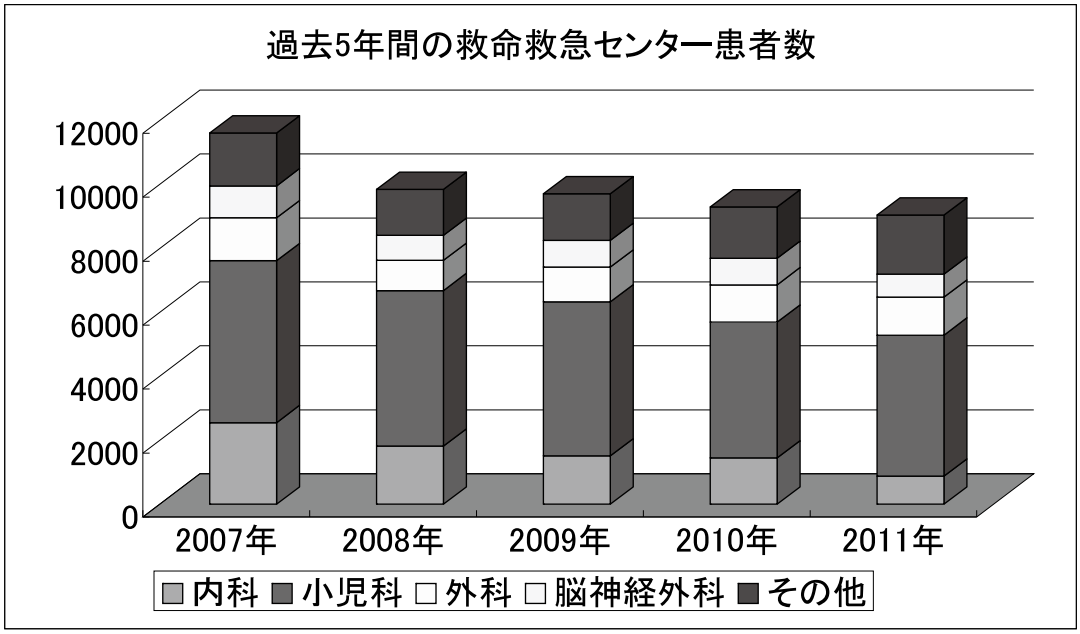
平成 24 年 5 月 1 日現在

2

医療分析

全体的統計

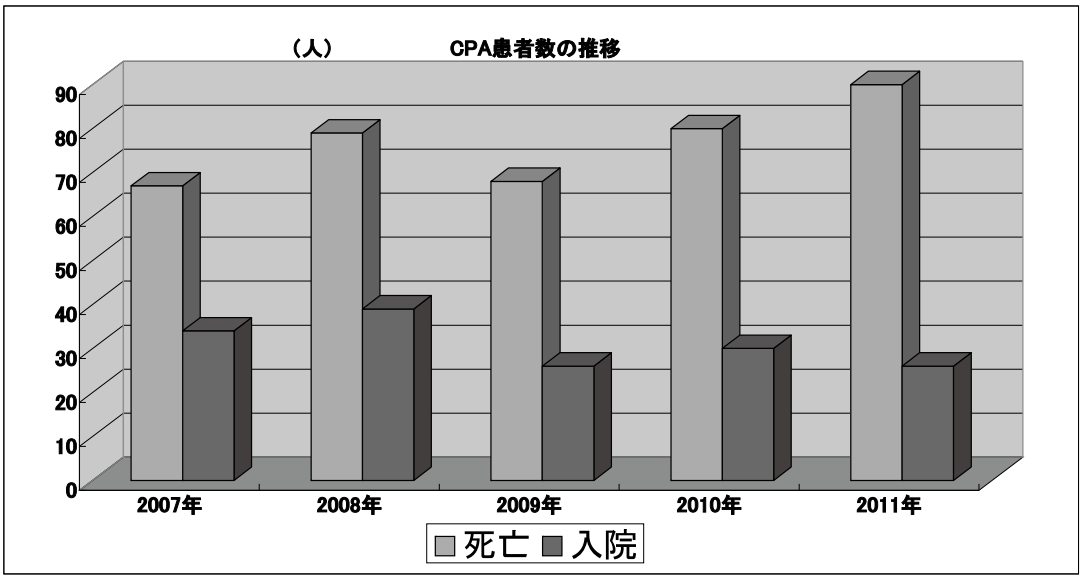
●過去5年間救命救急センター患者数



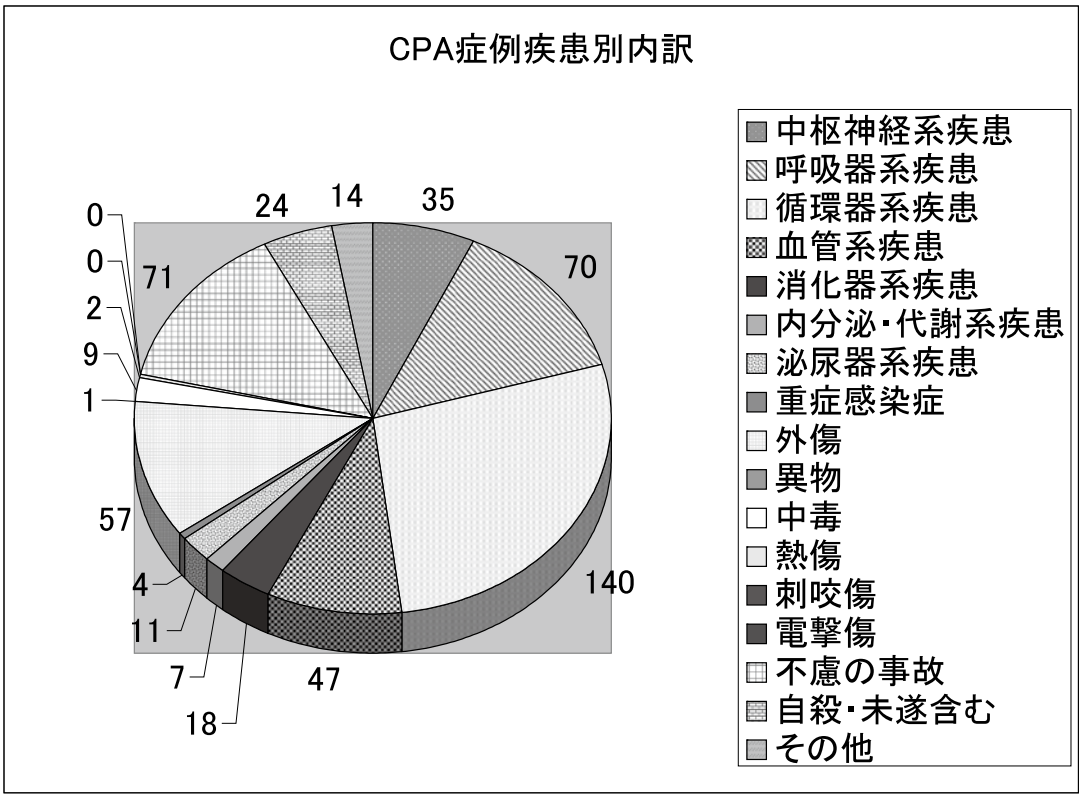
●救急車搬入数の推移

全体的統計

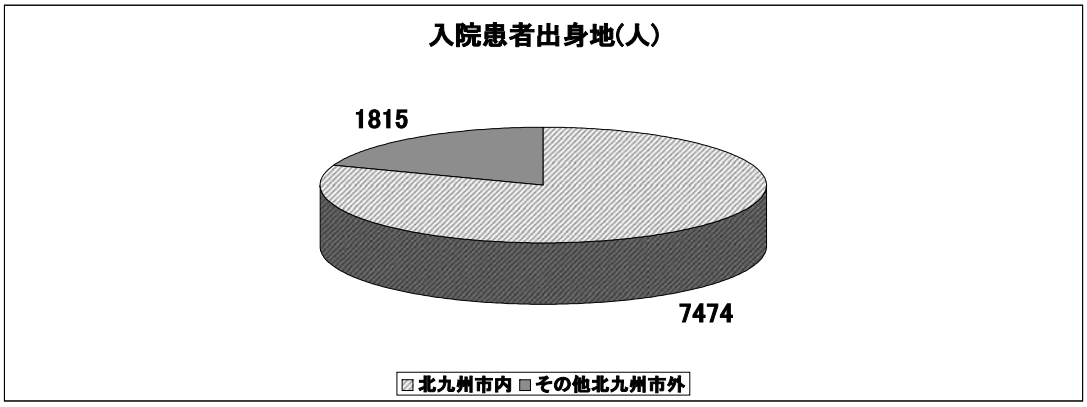
●CPA患者数の推移

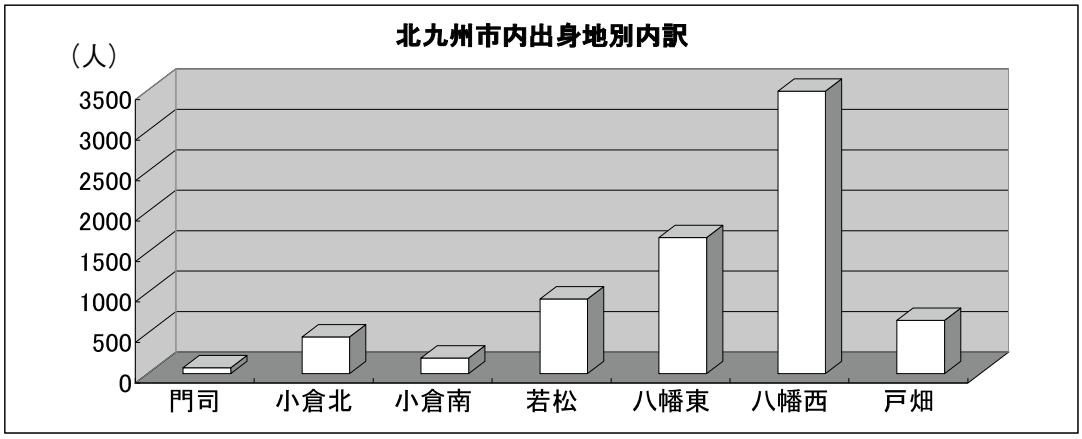


●過去5年間のCPA症例疾患別内訳

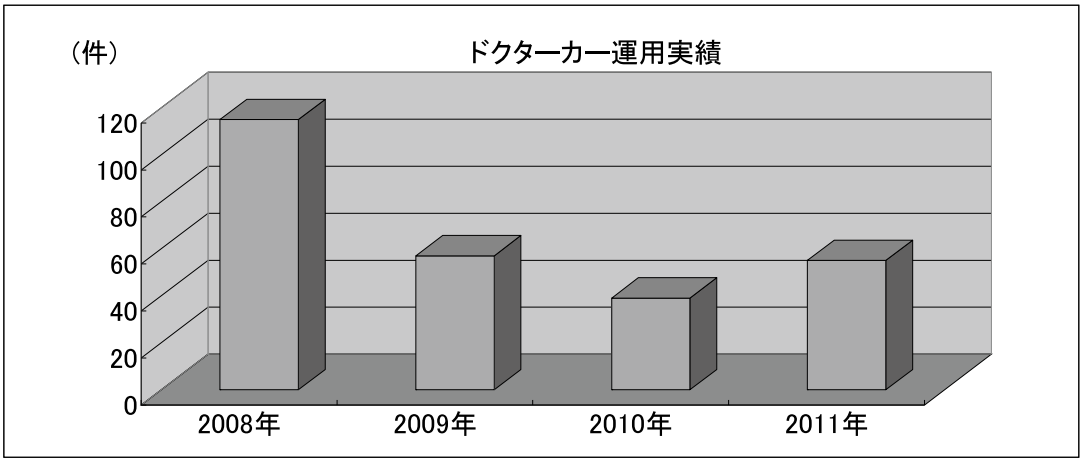


●2011年　患者出身地別入院状況



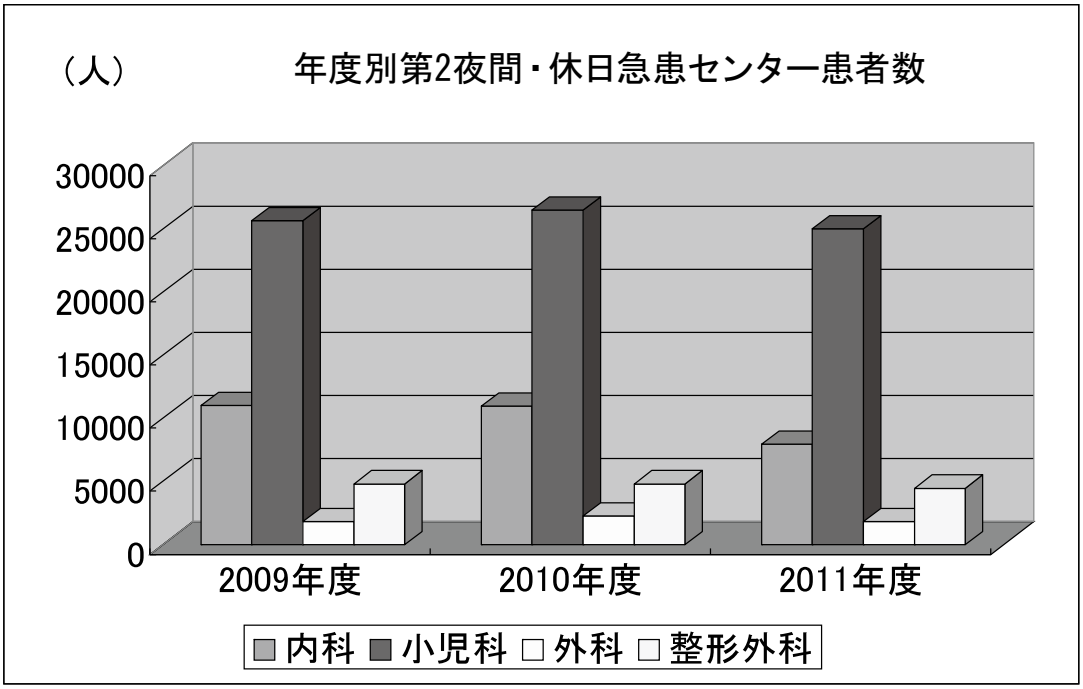


●ドクターカー運用実績

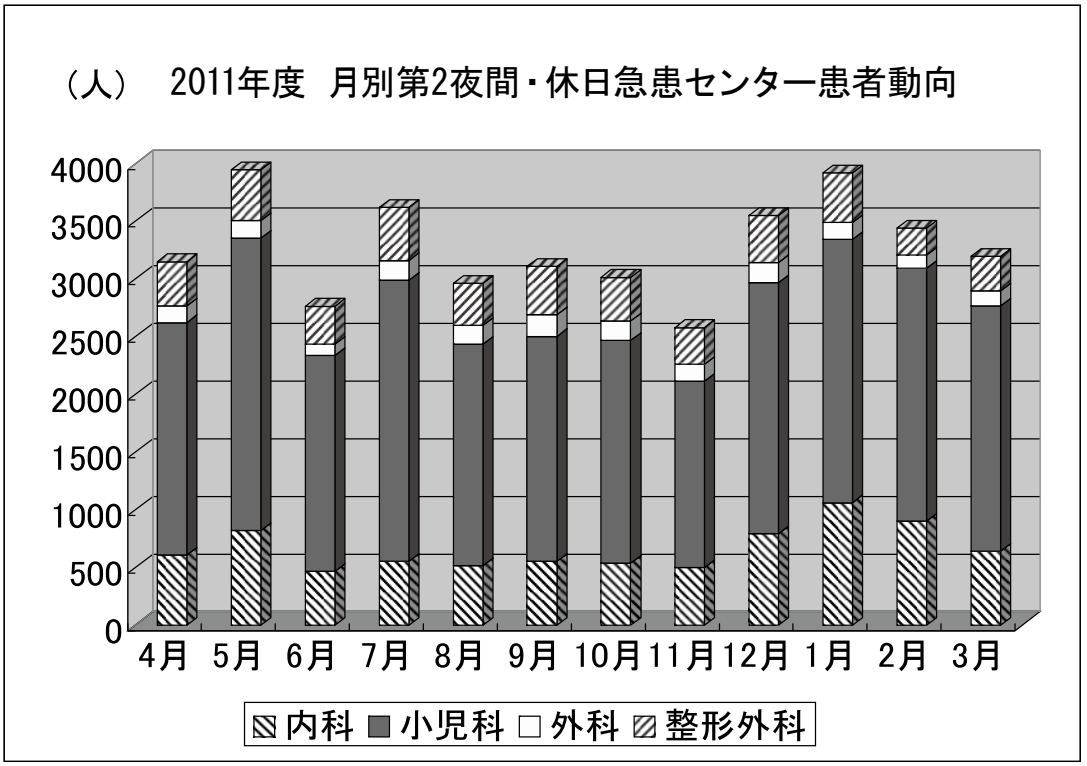


全体的統計

●年度別第2休日夜間・休日急患センター患者数の推移



●2011年度　月別第2夜間・休日急患センター患者動向



3

クローズアップ

東日本大震災におけるDMATおよびJMAT医療支援に参加して

1. DMAT活動報告

救急科 統括DMAT　井上　征雄

災害派遣医療チーム（DMAT）とは、医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害において、急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

2011年3月11日の東日本大震災の発災後、医療的支援のため、当院のDMATにも待機指令がかかりました。3月12日深夜に、ドクターカーにて福岡空港に向かい、九州各地のチームと合流し、自衛隊輸送機にて出発しました。茨城の百里基地にて自衛隊ヘリにのりかえ、仙台市内の自衛隊霞目基地に到着しました。上空から見ると、津波で海岸線と陸地の境界はなくなり、震災の被害の大きさに驚きました。

現地では、多数の被災者が自衛隊や消防ヘリにて救助され、避難所に搬送されていました。救護所にて傷病者をトリアージし、応急処置を行いました。発災翌日で、基地内の救護所もライフラインは途絶し、夜間照明もないため、活動は困難でした。発災3日目に新潟から空路で福岡に帰投しました。

当院には3つのDMATチームがあり、定期的に実働訓練と技能維持研修を受けています。今回は初めての現場出動でしたが、災害拠点病院として今後も積極的に活動して行く予定です。

出動したDMATチーム

最後に、今回の東日本大震災により被災された皆様にはお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

2. 東日本大震災における JMAT医療支援に参加して

災害医療研修センター長
統括DMAT　伊藤　重彦

JMAT（Japan Medical Association Team）は日本医師会が組織する災害時医療支援チームです。大震災発生後の3月20日、北九州JMATは福岡県のトップバッターとして茨城県に出動しました。チーム編成は、八幡病院DMAT5名に加え、北九州市医師会4名、北九州総合病院DMAT3名の12名で、県医師会副会長1名が随行参加されました。北九州市医師会の迅速な判断により、日本医師会のJMAT派遣決定からわずか5日目には現地入りしており、発災早期の医療ニーズにあわせたタイミングで出動ができました。

私たちの支援内容は、茨城県高萩市と北茨城市の避難所の巡回診療です。今回の震災では行政機関の被害が大きく現地情報は交錯しているため、出発前に最大限の現地情報を収集しました。現地までの交通事情やガソリン給油場所などを調査して、3月18日（出発2日前）には、隊員移動用のナビ付き緊急車両2台（当院ドクターカーと医師会検診車）を東京の有明埠頭までフェリーで搬送しました。また、避難所支援にあわせて、インフルエンザ等治療薬や慢性疾患に対する内服薬、外傷治療セット、避難所での感染予防のための消毒薬、手袋、マスクなどを準備しました。また、医療機関の患者カルテが消失しているため、八幡病院仕様の災害用カルテも用意しました。

チームは3月20日早朝に飛行機で羽田まで移動し、移動車両で交通規制中の常磐自動車道を通り、午前中に高萩市に着きました。電気はすでに

復旧していましたが、水道、ガスはまだ途絶したままでした。石油基地が被災し、さらに原発事故で流通がストップしているため、一般車両のガソリン給油は非常に困難な状況でしたが、緊急車両証明書を持つ我々支援医療チームの車両は優先的にガソリン給油ができました。地震被害により、高萩市庁舎の災害対策本部は近くの体育館へ移動していました。市内避難所2カ所で300名以上の避難者のうち26名に対して処方等の診療を行いました。翌21日は北茨城市に入り、災害拠点病院の北茨城市立総合病院で情報収集を行いました。北茨城市立総合病院も被災のため100以上の入院患者が発災翌日にDMATにより別の医療機関へ移されていました。北茨城市内の避難所は10カ所に点在しており、ミーティングに一緒に参加していた筑波大学の医療チームと分担することにしました。5カ所の避難所の約200名のうち、51名に処方等診療を行いました。3月22日午前中は再び高萩市の避難所を巡回診療し、午後には陸路東京を経由して、羽田空港から22日夜中に北九州空港まで戻ってきました。

八幡病院からDMAT、JMATとして2度出動し、貴重な経験をさせて頂きました。

出動したJMATチーム

3. 小児救急医学会派遣報告

小児科　牧　隆司

4月1日に八幡病院に赴任して慣れる暇もなく、4月5日より岩手県陸前高田市に災害派遣されました。あれから一年たち、いまだ印象に残った出来事を箇条書きにしてみました。

1. 幻の秋田美人

往路は羽田、秋田を経由して新幹線こまちで盛岡に行くルート。途中待ち時間に秋田市内を徘徊してみたが秋田美人には会えず、ただなまはげは多かったのでそれなりに収穫はあった。

2. 災害と日常の境

ある線を越えると（つまり津波が来た範囲）そこからは見渡す限りがれきの荒野。そこまでは見た目、日常の風景。ここまではっきりしているとは。

3. 日赤は偉大なり

小児救急医学会の派遣だったが、機材、薬剤すべて日赤の医療チームに依存。3日おきくらいでメンバーも入れ替わる。同じユニフォームで決めていてかっこいい。こちらは普段着、食事もカロリーメイトなどで見た目も貧相。

4. トイレ

避難所は高田第一中にあり、体育館、教室が避難所となっている。トイレは水が無いので水洗が使用できず全て仮設トイレ（工事現場にあるもの）。不潔でにおいもひどい（とても大はする気にならない）。胃腸炎がはやれば多分全滅。

5. 自衛隊

被災地で会うと本当に頼りになる印象。飲料水の配給所にいるときでも休めの姿勢で微動だにしない。防衛費増額に賛成。ミサイルもいいけど給料も上げてやってね。

6. 電気と水道

宿舎は車で30分の隣町にある住田診療センター。ここは被災しておらず水も電気もある。シャワーも使え、温かい食事も（非常食だが）出してもらえる。暖房は限られているので夜は冷える。非常用ブランケットがあれほど暖かいとは知らなかった。しかし、3日目の夜に大きな余震があり完全停電に。非常用の電源のみで薄暗い中診察。患者さんの顔色も見えない。携帯の充電だけはやってもらえたので助かった。

7. 東北の人々

避難所で話を聞いてみると、子供が流された、

一人しか助からなかった、などという普段なら聞くに堪えない話がありふれている。しかしその中にあっても人々はちゃんと食べて寝て、話し、笑っている。子どもたちは元気に走り回り、ボランティアのプロサッカー選手に群がっている。なんと強い人たちだろう。自分なら耐えられるだろうか。東北という厳しい環境がこの地にすむ人々を強くしたのだろうか。自分には自信がない。

8. 復路

4月9日、高田から盛岡赤十字に通院するための日赤のバスに便乗させてもらい被災地を後にする。被災地のことと、これから始まる八幡病院での診療に対する不安に思いを馳せていたおかげであまり得意でない飛行機での移動に耐えられた気がする。

9. 派遣仲間

八幡病院からは福政、八坂、牧、山本の順に参加。印象に残ったのは自分の前に派遣された近大奈良病院小児外科の小角先生。神戸大震災の経験もあり、身体も声も大きくたくましい。診療より本当は井戸掘りがしたかった、とのこと。納得。

以上

災害医療研修センターと広域災害時の医療救護（北九州モデル）

災害医療研修センター長
統括DMAT　伊藤　重彦

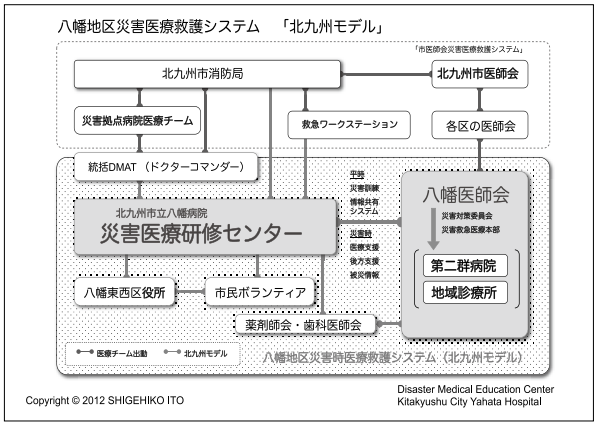
1. 災害医療研修センター設置

2011年3月11日 大災害から1年以上経過しましたが、福島原発事故の影響で被災地復興は思うように進んでいません。「起こらないはずの災害」が起こったあとの被害の大きさを目の当たりにして、私たちは広域災害時の医療救護体制を抜本的に見直す必要性を痛感しました。そこで、北九州地域の災害時医療救護システムを強化するため、平成23年10月、八幡病院内に災害医療研修センターを立ち上げました。おもな活動は（1）災害時の被災者情報と投入可能な医療資源の連結 （2）平時の災害の種類にあわせた訓練・研修の企画と運営 （3）診療所医師、薬剤師、歯科医師等による災害時後方支援体制の構築（北九州モデル事業）です。折しも、北九州市は地域防災計画の見直し中で、今後は「災害拠点病院」や「統括DMAT」といった言葉や役割が明文化される予定です。当院は、この地域の災害医療チームを統括する病院（医療コマンダー）であり、福岡県DMAT指定施設です。東日本大震災では、発災早期の医療コーディネーター不在が問題となりましたが、この研修センターが北九州地域の医療コーディネーターの役割を担えればと考えています。

2. 八幡地区広域災害時医療救護体制（北九州モデル）　について

JMAT、DMATなど、災害時の派遣医療チームは全国的に充実してきました。しかしながら、災害急性期における被災地内医療資源の投入先調整、入院治療や避難所の巡回診療など後方支援体制はいまだ未整備です。研修センターでは、八幡地区をモデルとして、人口20万～30万人医療圏の広域災害時に、地域医師会、薬剤師会、歯科医師会、行政機関、市民が連携する被災地内の医療支援体制の構築（北九州モデル）を目指しています。災害発生時には、八幡地区被災者の情報と投入可能な医療資源を研修センターで分析し、効果的な医療支援を行います。発災後1週間頃から増加する感染症に対しては、NPO法人KRICT（北九州地域感染制御チーム）の協力を得て避難所等における感染予防対策を行います。研修センターがコーディネーターとして、後方支援の分析・調整を行います。

現在、研修センター活動に対して、北九州市医師会、北九州市八幡医師会、遠賀・中間医師会、北九州市消防局、遠賀郡消防本部、中間市消防本部 、北九州市薬剤師会、八幡薬剤師会、遠賀中間薬剤師会、八幡歯科医師会、遠賀歯科医師会 、NPO法人KRICTなど多くの機関・団体からご協力頂いています。詳細は、八幡病院ホームページ「災害医療研修センター」をご覧ください。



消化器･肝臓病センター

センター長　　岡本　好司

2011年11月1日北九州市立八幡病院に、消化器・肝臓病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行なうための消化器・肝臓病センターを開設しました。このセンターは、消化器内科、消化器・肝胆膵外科、放射線科の各診療科医師や専門薬剤師、看護師の密で機動的、横断的なチーム連携により、高度な診療体制を構築して行くことを目標として運営されています。

2011年は、2ヶ月間の活動でしたが、滑り出しは順調で、肝臓手術は11月11日に第1例目の肝細胞癌に対する肝内側区域切除術を施行しました。その他にも、各種癌に対する内視鏡下切除術を含めた癌摘出術、癌化学療法が施行されました。

来年度は、益々、近隣の先生方からのご紹介を増やし、外科的切除術、化学療法等を増やして行きたいと考えています。試みとして、今まで行なっている病病・病診連携だけでなく、各地域の市民センターでの健康セミナーの開催等を予定しています。

第1例目　手術風景

心大血管リハビリテーション

循環器科　太﨑　博美

平成23年4月から待望の心血管リハビリテーションを開始しています。今回　心リハが揃ったことで、これまで循環器科が行ってきた緊急時心カテなどの一連の医療行為が完結すると考えています。その意味で、まさしく待望の心リハ開始です。

開設に関しては、心大血管疾患リハビリテーション料（1）に対する施設基準を満たすことが必要です。人的には、循環器科医師と常勤看護師もしくは常勤理学療法師が勤務していることが条件になります。設備面では、30㎡以上の広さの専用機能訓練室に酸素供給装置、除細動器、心電図モニター、エルゴメーターなどが必要です。現時点で、運動機能評価のための運動機能検査（CPX）と4台のエルゴメーターで開始しています。

対象疾患は、狭心症、心筋梗塞、大血管疾患、末梢血管疾患で、それらの術後も含まれます。また、心不全も左室駆出率40%以下かBNP80pg/ml以上で適応です。リハビリテーションが、運動療法のみを指すものではないことはよく言われていることですが、これまで循環器科で行ってきた、患者の重症度評価、運動処方とトレーニング、冠危険因子制御、社会復帰カウンセリングを包括します。

心大血管リハビリテーションの点数は、心大血管疾患リハビリテーション料（1）では、1単位（=20分間の心リハ）について200点で、入院では3単位/日が認められています。外来では、9単位/週です。その他に、運動機能検査や総合計画評価料などが加算されます。標準的算定日数は、150日以内です。

心リハで改善する項目は、運動耐容能の改善や心臓のポンプ機能の改善はもとより、血管、骨格筋、副交感神経の活性化、生活の質の改善であり、最終的には、入院と死亡の減少が見込まれます。これまでの患者さんは、リハビリをすることで、より日常生活に近い状態で退院されました。“顔色が良くなった”などの“見た目の変化”を患者さん同士で言い合っています。これからも多くの患者さんへ適応して、“元気が出ました”ということを実感して頂けるようにしたいと思います。

平成23年度（12ヶ月間）で、64名の患者さんが心リハに参加しました。平均年齢は、63.3±17.8歳で、男子が45名（70%）でした。実施途中で、心房性頻拍のため中止とした症例がありましたが、その他は大きなトラブルもなく実施できています。

平成24年5月からは、新たに外来リハビリも開始しています。本年度の年間の総収入も120,000点程度から約10倍の1,129,200点と予想しています。本院の循環器内科医が、心臓リハに興味を持って心臓リハビリテーション指導士の資格を取得するようになりました。今後、総合リハビリセンターの一角を担えるように充実させていきたいと思います。

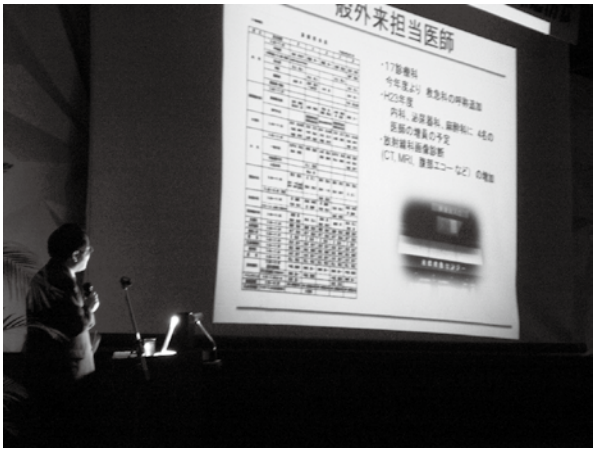
医療連携会

医療連携室室長　太﨑　博美
地域医療連携推進担当課長　阿比留　悦子

数年前より、地域の医療機関は、各々の特徴を生かしお互いに連携しながら、地域の医療機関全体でひとつの病院のような機能を持ち、切れ目のない医療を提供することが求められている。病院完結型医療から地域完結型医療へと転換している中、多くの病院が医療連携に力を注いでいる。

当院は、平成23年2月10日（木）に第3回となる医療連携会を開催した。医療連携室室長である副院長の太﨑より、医療連携の現状を報告した。平成22年度の紹介率は48.8%、逆紹介率は16.7%であった。地域医療支援病院の認定を受けるには、まだまだ厳しい数字であるが、医師会をはじめ多くの先生方からあたたかい言葉をいただき、それを糧に職員一丸となって努力していきたいと考えている。

その後、各診療科医師より地域医療機関のみなさまへ当院の情報を発信した。小児科からは、八幡病院の特徴のひとつである小児救急の年間の救急患者の推移、今年の特徴、今後の課題等を紹介した。小児科医が減少している中、地域の住民からの要望は多い。小児科は市川院長をはじめとした総勢約21名（うち後期研修医8名）の小児科医からなる市中病院の同じ科としては類をみない大きさの充実した診療科である。そのマンパワーをフルに活かしチーム医療を基本としている。



各診療科講演

懇親会

一人一人の子供を複数の目で観察し、ゆっくりとお話を伺い、偏りや誤りのない、最新でありかつ、誠実な医療を目標として日々の診療を行っている。外科は「顔の見える医療連携」と題して当院の外科スタッフや検査について紹介した。循環器科は心臓カテーテル検査を映像でわかりやすく紹介した。眼科は、「泣かせない眼科」と題し当院で行っている検査や手術を紹介した。

今回、約130名の医療関係者のご参加をいただき、連携を深めることができた。今後も地域の医療機関のみなさまとともに地域住民の健康問題に取り組んでいきたい。

小児救急看護認定看護師活動について

小児救急看護認定看護師　梶原　多恵

1. 小児救急看護認定看護師とその活動内容

認定看護領域の中でも2004年11月に新たに分野特定された小児救急看護認定看護師は、救急外来を受診する子ども・家族への看護ケアを通じ、継続的な家族支援や環境調整、子どもの健やかな成長発達と安全のために幅広くケアに関わることを目的としています。

救急外来では、小児救急トリアージシステムを導入し緊急度に応じた迅速で効率的な診療や看護を目指しています。受診する子どもと家族の状況、中でも育児不安や養育環境を的確に把握し、虐待を見逃さないことも小児救急看護認定看護師の責務の一つです。病児と家族への身体的介入だけにとどまらず、育児不安への能動的支援も要求されます。

救急外来では子どもの傷害や事故にも多く遭遇します。子どもの傷害や事故は予測できない出来事ではなく、防ぎえた出来事として扱うことが必要です。現在、小児救急センターニュース（1回／2月）を発行し、パンフレットおよびポスターとして掲示し、急変時の家庭での対応のみならず、傷害・事故予防のための啓発活動に取り組んでいます。

さらに、小児救急に関した勉強会を企画・開催するなど、小児救急看護の質的向上に努めています。毎週月曜日夕方には「小児救急トリアージ検証会」を開催し、アンダートリアージとなった症例を取り上げ、対象となった症例の背景と実施されたトリアージと予後を振り返り、各スタッフにフィードバックできる継続的なスタッフへの教育の場として提供しています。

上記の院内活動での経験をもとに、主催する院外小児救急ワークショップのファシリテーターならびに定期的な「子育て勉強会・講座」の講師として、小児救急医療・看護の実践と地域の育児支援活動を院外へと展開しています。（業績ページに掲載）

2. 次年度の活動予定

育児支援調査を行い、救急外来を中心とした外来診療に役立てることを本年度予定として準備しています。来院する子どもの保護者に対し、STAI法（簡易版）を利用し保護者の特性不安と状態不安を個別に評価し、さらに育児不安度数を選択式の問診票により短時間に評価できる調査です。来院後の育児支援を継続して必要とする保護者に向けたオーダーメード医療を展開しようと考えています。育児不安から発生するMaltreatment syndromeを早期に予知し、小児救急看護認定看護師による中心的な介入を計画しています。

救急外来での活動だけでなく、小児病棟および小児病棟以外の病棟に入院している子どものケアについての育児相談を病棟保育士と共に支援システム構築したいと考えています。患児と保護者が、安全で安心できる入院生活と退院後の支援をその目的としています。

小児救急看護認定看護師活動について

小児救急看護認定看護師　橋本　優子

2007年に小児救急看護認定看護師の資格を習得し、2011年は資格取得後5年目の年となった。2007年当時は、小児救急看護認定看護師は全国に35名と少なく、まだ認知されていなかった。そのため、認定看護師として活動当初、「私たちにどのような役割があるのだろう。」と日々葛藤していた。しかし、資格取得後5年が経過する今、ようやく小児救急看護認定看護師としての役割が明確になり、活動内容が確立してきた。

①小児救急看護場面において子どもの権利と尊厳を保障し、医療チームの一員として倫理的に行動する　②トリアージし、子どもと家族に対して適切な援助をする　③根拠に基づいた小児救命技術・小児救急看護技術を実践する　④医療従事者や地域社会に対して小児救命知識・技術を指導する　⑤家庭での育児能力向上に対する社会資源となる　⑥子どもの虐待に対する予防、早期発見および適切な援助を実践する　⑦発生した事故の情報収集と分析を通して、事故防止の啓発活動を行うなどのさまざまな役割がある。

2011年は小児科外来に所属していた。その中で、子どもの権利と尊厳という倫理面から、2010年に行った小児科外来で医療処置が保護者および患児にもたらす影響（保護者の同席の有無での保護者と医療従事者の反応）の継続研究として、2011年には保護者の同席の有無での患児の対処行動と保護者の心理状態について調査を行い、患児と保護者の望む環境の中で医療が提供できないかと改善をはかってきた。また、小児科外来看護スタッフを対象に外来トリアージや救命技術の学習会を行い、さらに、2010年に開設した外傷外来において、外傷で救急受診をした患児を対象に発生した事故の情報収集、新APP事故傾向予測調査および予防、育児能力向上への支援、虐待の予防・発見などを行ってきた。その外傷外来での患児や保護者への個別性に応じた指導・支援はもちろん、その場で得た情報などを基に発展させ、院外活動として北九州市立子どもの館での月1回の子育て勉強会（病気・応急処置・事故防止など）、子育て支援サロン“ぴあちぇーれ”での育児講座（応急処置・救命指導）、すくすく子育ちフェスタでの出展（育児相談・事故防止・救命指導）など保護者を対象に地域社会にも出向いた。さらに、患児や保護者のみならず、看護スタッフなど医療従事者にも第30回福岡救急医学会学術集会の看護セミナーの場で、小児救急看護分野に関する講演（外来トリアージと病棟早期警告スコアリング・システムによる小児アセスメントの標準化）を行った。この他にも、日本小児救急医学会学術集会での発表、看護系雑誌への執筆（業績ページに掲載）、小児救急センターニュースの発行（隔月）、看護学生への講義（救急看護、小児看護）などを通し、小児救急看護の普及活動を行った。

今後は小児科病棟においても小児救急看護の実践を通して役割モデルを示していき、病棟看護スタッフに対し具体的な指導や相談を行えるように頑張りたい。また、2011年から小児科病棟で取り組んでいる病棟早期警告スコアリング・システムの確立や小児科病棟での医療処置への保護者の同席などプレパレーションの導入を行い、認定看護師の3つの役割である実践、指導、相談が果たせるよう努めていきたい。

子育てフェスタ

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師活動について

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
波多野　妙

平成23年7月に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得し、脳神経外科病棟を中心に活動しています。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の主な役割として、「脳卒中急性期から患者様の将来を見据え、回復期、維持期まで長期的な視野を持って看護を行っていくこと」があげられます。

特に、急性期は病態の変化を見逃さないように適切な観察を行っていくと同時に動かない、動けないことによっておこる2次障害（呼吸、循環、筋力などの生理的機能、精神的機能低下、褥瘡、関節拘縮など）を予防することが重要となります。さらに、病気による後遺症で変化した生活を再度組み立てていくための支援を行い、脳卒中再発予防のための健康管理について患者様およびご家族に指導を行うことも重要な役割であると考えています。

現在は脳神経外科病棟で看護を行う中、役割モデルとなることが活動の中心です。急性期は病態にばかり目を向けがちですが、患者様やご家族の精神的なフォローや廃用症候群を予防するためリハビリテーションの要素を取り入れた看護を行うように心がけています。実践の中で病棟スタッフへ指導を行い、患者様、ご家族により良い看護を提供していきたいと考えています。

昨年は、スタッフの看護レベル向上に向け、病棟内でポジショニング（患者様の状態にあった負担の少ない体位をとることで、体の左右のバランスを整え、関節の脱臼、肩や足に痛みが出ることを予防すること）の勉強会を行いました。また、以前から病棟看護師で取り組んでいる嚥下訓練について、訓練の方法、食事摂取時の体位などの見直しを行い、看護研究として取り組んでいます。患者様に食べる喜びを取り戻していただけるように関わっていきたいと考えています。

週1回のリハビリテーションカンファレンスでは医師、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカー、薬剤師など他職種との連携を深めながら、チームで患者様のより良い回復に向けた支援を行っています。

今後は、院内での脳卒中看護の質向上のため、看護科全職員を対象とした勉強会の実施や他分野の認定看護師との連携も図っていきたいと考えています。加えて、脳卒中予防の啓蒙にも力を入れていきたいと考えています。

良肢位を取るためのポジショニング

ポイントは肩と骨盤!

麻痺側の肩の脱臼、疼痛、肩手症候群を予防

麻痺側下肢の外旋を予防

感染管理認定看護師活動について

感染管理認定看護師　中川　祐子

○感染管理認定看護師紹介

現在当院では、感染管理認定看護師（ICN ：infection control nurse）2名（1名専従、1名兼任）が在籍しています。

ICNの役割は、専門的な知識と技術を用いて、患者・来訪者・医療従事者・施設・環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、正しくかつ効率的な感染管理を計画、実践、評価し、提供するサービスの質の向上を図る事です。実践では、患者個人やその家族、病院に入院している患者や医療従事者などの集団に対して、認定看護師として身に付けた高度な看護知識と熟練した技術を扱い、質の高い看護ケアを提供することを役割としています。看護師および医療従事者からの相談に対し、患者の問題解決の手助けをするために専門的な知識の提供などによりコンサルテーションを行います。また、指導としては、患者に提供する看護ケアを通して、他の看護師や医療従事者に専門的な指導や知識の提供を行います。

○感染管理認定看護師活動状況

院内感染対策委員会およびICT委員会に所属し、院内感染対策委員会ではICT委員会報告を行い、ICT委員会では企画・運営を任されています。ICT委員会活動の一つとして、看護師、看護補助者、委託業者を対象の感染管理研修をそれぞれ年に2～3回、リンクナースとともに実施しており、今年度で6年目になりました。

サーベイランス活動としては、JANIS（厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業）に参加し、全入院患者の耐性菌サーベイランス、SSIサーベイランスを実施しています。平成22年度からは、北九州地域で流行しているVREについて、入院時アクティブサーベイランスを開始しました。さらに、平成23年度からは、院内の保菌圧調査として、耐性菌等隔離患者入院状況サーベイランスも行っています。

学会発表は、日本環境感染学会にて、衛生学的手洗いの意識向上に向けた取り組みと今後の課題（筆頭者）、地域におけるオムツ交換の標準化（共同演者）の2題について発表しました。

地域活動として、講演、手洗いキャンペーン、病院感染対策ラウンドを実施しました。

○今後の方向性

医療関連感染サーベイランスとして、人工呼吸器関連肺炎サーベイランスや尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランスに取り組みたいと思います。感染管理研修や講習会では、「現場で使える感染対策」を目指して、現場で実践可能なものを計画し、実施していきたいと思います。また、地域と連携し、「地域で行う感染管理」を目標に、これまで以上に活発な活動をしていきたいと思います。

4

業績集

2011年 八幡病院業績集

院長

論文

1 問診＆鑑別診断「けいれんの巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：65－68 2011

2 皮膚病変のフィジカルアセスメント－Ⅱ
市川 光太郎
小児看護 34（1）：118－125 2011

3 問診＆鑑別診断「不明熱の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：159－162 2011

4 問診＆鑑別診断「喘鳴の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：252－255 2011

5 改正臓器移植法と小児科医
市川 光太郎
日本医師会雑誌 139：2536－2540 2011

6 問診＆鑑別診断「腹痛の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：375－378 2011

7 序、特集；小児の救急疾患－外傷における初期対応
市川 光太郎
小児科臨床 64：537－538 2011

8 小児救急の本質とあるべき姿
市川 光太郎
小児科臨床 64：539－546 2011

9 小児救急医療の現状と問題点～総合小児救急医学の体系化を目指して～
市川 光太郎
小児科臨床：547－553 2011

10 問診＆鑑別診断「嘔吐の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：486－491 2011

11 特集・輸液Q＆A、「脱水の身体所見の特異度と感度について教えてください」
市川 光太郎
小児内科 43：713－716 2011

12 乳幼児診療A to Z「意識障害」
市川 光太郎
小児科 52：655－661 2011

13　乳幼児診療A to Z「気道異物への対応」
市川 光太郎
小児科 52：789－794　2011

14　問診＆鑑別診断「ソファから転落？の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：595－598　2011

15　こども虐待に対する学校と医療機関の連携
市川 光太郎
教育と医学 59：568－580　2011

16　問診＆鑑別診断「生後3ヵ月未満児の発熱の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：697－700　2011

17　現場からの考察 シンポジウム「0歳児における虐待防止対策の取り組み」
市川 光太郎
日本医師会雑誌 140：（4）817－820　2011

18　問診＆鑑別診断「意識障害の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：798－802　2011

19　問診＆鑑別診断「咳込み・発熱の巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：917－921　2011

20　小児災害救急医療の現状と課題～東日本大震災支援医療を経験して～
市川 光太郎
日本小児科学会雑誌 115：1285－1293　2011

21　虐待の発見①～虐待による外傷の特徴～
市川 光太郎
チャイルドヘルス 14：1524－1530　2011

22　問診＆鑑別診断「アレルギーの巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：1021－1024　2011

23　小児保健の現状と課題「救急医療からみて」
市川 光太郎
小児保健研究 70巻記念号：17－18　2011

24　問診＆鑑別診断「喘鳴とチアノーゼの巻」
市川 光太郎
Emergency Care 24：1137－1140　2011

25　小児救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
医報とやま No.1537：7－10　10月15日号　2011

26　巻頭言
　　市川 光太郎
　　日本小児救急医学会雑誌 10：353　2011
27　全国12施設におけるALTE症例の前向き実態調査
　　市川 光太郎
　　日本小児救急医学会雑誌 10：381－385　2011
28　問診＆鑑別診断「嗚咽の巻」
　　市川 光太郎
　　Emergency Care 24：1253－1256　2011
29　外来トリアージで診る小児救急疾患～見逃しを防ぐトリアージスキルを学ぼう～
　　市川 光太郎
　　愛知県小児科医会会報 94：Nov.21－25　2011
30　災害時の小児救急医療とその課題～日本小児救急医学会の東日本大震災支援医療活動を経験して～
　　市川 光太郎
　　母子保健情報 64：（11月号）6－12　2011
31　慣れによる思い込みが診断を遅らせた
　　市川 光太郎
　　ER magazine 8：（4）576－582　2011

学会発表

1　小児救急医療現場で遭遇する児童虐待
　　市川 光太郎
　　平成23年 金沢医師会虐待防止講演会特別講演　2月8日　金沢
2　外来トリアージで診る小児救急疾患
　　市川 光太郎
　　第273回 愛知県小児科医会例会講演会　3月21日　名古屋
3　日本小児救急医学会の支援活動の開始と経緯、特別企画「東日本大震災を経験して」
　　市川 光太郎
　　第25回 日本小児救急医学会総会　6月10日　東京
4　虐待症例の除外、脳死判定セミナー
　　市川 光太郎
　　第25回 日本小児救急医学会総会　6月10日　東京
5　震災時の救急医療～わが国の子どもの災害医療は？～
　　市川 光太郎
　　第61回 広島県小児科医会総会　7月10日　広島
6　小児救急現場で遭遇する児童虐待～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつなぐか～　シンポジウム3「虐待の現状と病院の役割」
　　市川 光太郎
　　第61回 日本病院学会　7月14日　東京

7　学校現場における児童虐待への対応、シンポジウム「いま、学童・生徒を取り巻く諸問題」
　　市川 光太郎
　　第59回 九州学校保健学会　　8月21日　北九州
8　外来トリアージで見抜く小児救急疾患
　　市川 光太郎
　　第56回 愛媛県小児科医会教育集会　　9月4日　松山
9　小児救急医療における児童虐待への対応
　　市川 光太郎
　　第13回 筑紫子ども虐待防止連絡協議会講演会　　9月6日　二日市
10　小児救急現場で遭遇する児童虐待
　　市川 光太郎
　　京都府立医大小児科学大学院講義　　9月9日　京都
11　小児救急医療で遭遇する児童虐待～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつなぐか～
　　市川 光太郎
　　富山県医師会児童虐待対応研修会　　9月16日　富山
12　医療現場で遭遇する児童虐待～どう関わるか？～
　　市川 光太郎
　　厚労省・日本小児科医会・母子愛育会共催；第5回「子どもの心の診療医」研修会　　10月2日　東京
13　教育講演；小児救急現場で遭遇する児童虐待
　　市川 光太郎
　　第65回 国立病院総合医学会　　10月7日　岡山
14　小児救急現場で遭遇する思春期の子どもたち
　　市川 光太郎
　　第11回 日本小児科医会・思春期の臨床講習会　　11月23日　東京
15　小児科医としてどのように災害医療に貢献するか？
　　市川 光太郎
　　第36回 東日本小児科学会　　11月23日　つくば
16　児童虐待と生命の危機～小児救急医療の現場から～
　　市川 光太郎
　　兵庫県医師会・平成23年度 児童虐待防止研修会　　11月24日　神戸
17　小児救急現場で遭遇する児童虐待
　　市川 光太郎
　　第2回 日本小児救急医学会教育セミナー　　12月4日　北九州

著書・原著

1　Column救急現場での必要知識
　　市川 光太郎
　　児玉 浩子、玉井 浩、清水 俊明 編集
　　小児臨床栄養学：380－381　診断と治療社

2　単著；改訂 小児救急の落とし穴
市川 光太郎
第2版　シービーアール

3　P－CTASを用いてトリアージスキルを身につけよう
市川 光太郎
改訂 小児救急の落とし穴：1－8　第2版　シービーアール

4　連載「小児救命救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ 風讃社　㈱ベネッセ
「転落事故での鎖骨損傷」No207；224、2011
「乳児嘔吐下痢症で脱水症状」No208；194、2011
「揺さぶられ症候群」No209；197、2011
「おもちゃに指を挟んだ」No210；221、2011
「放っておいた傷が炎症を起こした！丹毒」No211；178、2011
「壁掛け時計で頭部を打撲」No212；190、2011
「急性喉頭蓋炎」No213；225、2011
「アナフィラキシーショック」No214；219、2011
「クーファンからの転落」No215；219、2011
「りんご病」No216；236、2011
「虐待予備軍」No217；242、2011
「鼻の中に異物が入った」No218；241、2011

5　救急トリアージ
市川 光太郎、佐地 勉、竹内 義博、原 寿郎 編著
ナースの小児科学：212－221　改訂 5版　中外医学社

6　改訂の序
市川 光太郎
小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版：ⅳ－ⅴ　診断と治療社

7　小児救急外来トリアージ
市川 光太郎 編集
小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版：6－13　診断と治療社

8　児童虐待
市川 光太郎 編集
小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版：443－462　診断と治療社

9　思春期危急疾患
市川 光太郎 編集
小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版：491－506　診断と治療社

10　コラム
市川 光太郎 編集
小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版　診断と治療社
コラム
「重症食物アレルギー児のアナフィラキシー発作の原因はダニだった！」p21
「虐待を疑う熱傷とは？」p90
「先天性喘鳴のはずが、pulmonary slingだったとは？」p218
「3ヵ月未満児の発熱はどこまで検査するの？」p236
「銀杏中毒では催吐は禁忌！」p243
「なぜ、そこまでするの？自傷」p505
「思春期の面談法」p506
11　序文
市川 光太郎
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：初版　中外医学社
12　総論
市川 光太郎
市川 光太郎編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：1－26　初版　中外医学社
13　下痢
市川 光太郎
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：119－128　初版　中外医学社
14　伝染性膿痂疹
市川 光太郎
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：165－169　初版　中外医学社
15　蕁麻疹
市川 光太郎
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：170－175　初版　中外医学社
16　アトピー性皮膚炎・湿疹
市川 光太郎
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：176－184　初版　中外医学社
17　SIDS/ALTE
市川 光太郎
五十嵐 隆 編集
小児科診療ガイドライン－最新の治療指針－：37－39　第2版　総合医学社

18　小児
市川 光太郎
日本臨床救急医学会救急認定薬剤師認定委員会 編集
薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト：233－242　初版　へるす出版

19　追悼の序
市川 光太郎
山田 至康・市川 光太郎 編著
重症疾患を見逃さない小児の救急・当直診療 初版　羊土社

20　誤嚥（窒息～気道異物）
市川 光太郎
山田 至康・市川 光太郎 編著
重症疾患を見逃さない小児の救急・当直診療 ：128－134　初版　羊土社

21　Case study：重症疾患の見逃しやトラブルを防ぐポイント
市川 光太郎
山田 至康・市川 光太郎 編著
重症疾患を見逃さない小児の救急・当直診療：270－296　初版　羊土社

22　意識障害
市川 光太郎
総編集；五十嵐 隆　専門編集；田原 卓浩
小児科臨床ピクシス「発熱の診かたと対応」：56－62　初版　中山書店

23　CPAOA（SIDSを含む）
市川 光太郎
前川 和彦・相川 直樹 監修
今日の救急治療指針 第2版 Ⅲ.小児救急：459－463　第2版　医学書院

厚労省研究班研究事業報告書

1　市川 光太郎
全国12施設における平成22年8月・9月・10月発生の「ALTE症例」の前向き調査、厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合事業） 乳幼児突然死症候群（SIDS）の科学的根拠に基づいた病態解明および臨床対応と予防法の開発に関する研究（主任研究者；戸苅 創） 分担研究：小児救急医療現場におけるSIDS（突然死）症例に対する理想的対応に関する調査研究（平成22年度分担研究報告書）

2　市川 光太郎
医療現場・教育現場との連携強化のための研究－園医・校医の児童虐待相談機能強化のための事業推進について－
厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合事業）：児童虐待など子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究（主任研究者；奥山 眞紀子）分担研究：医療機関の虐待対応の向上に関する研究（平成22年度 分担研究協力者報告書）

1　小児救急と喘鳴疾患
　　市川 光太郎
　　第12回 西間会・勉強会　　1月10日　二日市
2　児童虐待と生命の危機
　　市川 光太郎
　　子どもの虹情報研修センター主催
　　平成22年度 児童相談所中堅児童福祉司・児童心理士合同研修会　　1月12日　横浜
3　小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル
　　市川 光太郎
　　日総研・小児救急看護研修名古屋大会　　1月15日　名古屋
4　周産期からの虐待ゼロプロジェクト対策について
　　市川 光太郎
　　第3回 長崎県児童虐待予防対策研究会　　1月18日　長崎
5　小児の頭部外傷、人為的外傷か？自然外傷か？
　　市川 光太郎
　　平成23年 第1回 石川県立中央病院・いしかわ母子総合医療センター臨床懇話会　　2月8日　金沢
6　医療現場から感じる子育て支援の大切さ
　　市川 光太郎
　　北九州市教育委員会 平成22年度 子育てサポーターリーダー養成研修講座　　2月17日　北九州
7　児童虐待への組織的な対応
　　市川 光太郎
　　平成22年度 東京都 第5回 専門研修会（児童虐待対応研修）　　2月18日　東京
8　シンポジウム「0歳児における虐待防止対策の取り組み」～現場からの考察～
　　市川 光太郎
　　平成22年度 日本医師会母子保健講習会　　2月20日　東京
9　外来トリアージで見抜く小児危急疾患
　　市川 光太郎
　　第7回 筑紫小児科カンファレンス　　3月3日　二日市
10　小児救急と呼吸器疾患
　　市川 光太郎
　　平成22年度 下関医師会小児救急研修・講演会　　3月12日　下関
11　病める家庭に保育現場からの支援はいかにすべきか？
　　市川 光太郎
　　嘉麻・桂川保育士会講演会　　3月15日　嘉麻
12　救急現場で遭遇する児童虐待
　　市川 光太郎
　　福岡県助産師会特別講演会　　3月27日　福岡
13　小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル
　　市川 光太郎
　　日総研・小児救急看護研修名古屋大会　　5月21日　岡山

14　児童虐待から子どもを守るには
　　市川 光太郎
　　福岡県人権擁護委員連合会総会講演会　　5月26日　二日市
15　児童虐待と生命の危機～小児救急医療の現場から～
　　市川 光太郎
　　いかに見出し、いかに向き合い、いかにつなぐか　都城市子ども健康フォーラム　　6月18日　都城
16　小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル
　　市川 光太郎
　　日総研・小児救急看護研修福岡大会　　6月25日　福岡
17　小児臓器移植医療と児童虐待－適切な臓器移植～成熟した小児脳死下臓器移植医療へ－
　　市川 光太郎
　　山梨大学医学部小児科「脳死と児童虐待」講演会　　7月8日　甲府
18　小児救急で求められる「判断」「処置」「対応」のスキル
　　市川 光太郎
　　日総研・小児救急看護研修東京大会　　7月9日　東京
19　脳死下臓器移植における児童虐待の除去
　　市川 光太郎
　　久留米大学医学部小児科・救急科合同カンファレンス講演会　　7月21日　久留米
20　小児救急医療と児童虐待
　　市川 光太郎
　　平成23年度 金沢子ども見守りネットワーク代表者会議講演会　　7月26日　金沢
21　児童虐待と生命の危機～救急医療の現場から～
　　市川 光太郎
　　子どもの虹情報研修センター 平成23年度 大学生・大学院生子ども虐待防止　MDT（多分野横断チーム）研修会
　　8月23日　横浜
22　子どもの心身の健康作り
　　市川 光太郎
　　子育てサロン講座　　8月25日　北九州
23　小児脳死下臓器提供と児童虐待
　　市川 光太郎
　　第1回 広島県臓器提供施設協議会・第2回院内コーディネーター研修会講演会　　9月1日　広島
24　小児臓器移植医療と児童虐待
　　市川 光太郎
　　富山県立中央病院・児童虐待研修会　　9月16日　富山
25　小児救急医療の軌跡と理想の将来展望
　　市川 光太郎
　　東京女子医大・八千代医療センター第35回小児救急カンファランス　　9月22日　八千代
26　子どもの健康と疾病
　　市川 光太郎
　　平成23年度 福岡県子ども家庭局保育講座　　9月25日　福岡

27 「傷つく脳～子どもの心に残るもの～」－児童虐待を早期に発見し、地域で見守る－
市川 光太郎
平成23年度 小倉北区子育て支援ネットワーク講演会 9月27日 北九州

28 小児救急医療における児童虐待の対応
市川 光太郎
横浜市立市民病院児童虐待防止研修会 10月4日 横浜

29 小児救急現場でみる児童虐待の現状
市川 光太郎
平成23年度 八幡東区保健福祉課虐待防止講習会 10月12日 北九州

30 外来トリアージで見抜く小児救急疾患
市川 光太郎
佼正病院小児救急研修会 10月14日 東京

31 小児脳死下臓器移植と児童虐待について
市川 光太郎
平成23年度 北里医学会 10月18日 相模原

32 救急現場から見る子どもの虐待
市川 光太郎
泉南市子どもを守る地域ネットワーク 平成23年度 虐待防止研修会 11月12日 泉南

33 小児科医から見た児童虐待
市川 光太郎
平成23年度 山口・防府地区虐待防止研修会 11月13日 山口

34 小児救急疾患と児童虐待の現状について
市川 光太郎
第73期 消防大学救急科教育訓練講義 11月22日 三鷹

35 小児救急疾患の特徴
市川 光太郎
平成23年度 救急救命士養成学校小児科学講義 12月6日 北九州

36 小児救急疾患の特徴
市川 光太郎
平成23年度救急救命士養成学校小児科学講義～児童虐待 12月13日 北九州

37 小児救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
西南大学保健福祉学部看護学科特別講演会 12月17日 北九州

座長

1 ワークショップ「乳幼児急性死亡の病態と予防」
市川 光太郎
第17回 日本SIDS・乳幼児突然死予防学会 3月5日 出雲

2 日本小児科学会緊急フォーラム
市川 光太郎
「この大災害に小児科医はどう立ち向かうか～適切な初動と情報の共有化を目指して～」 4月17日 東京

3　日本小児救急医学会第1回浜名湖セミナーを開始して
市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

4　分野別シンポジウム6「小児救命救急医療と蘇生を考える」
市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月13日　東京

5　一般演題「救急4」
市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月14日　東京

その他

1　市川 光太郎
読売新聞主催
エーザイ・厚労省共催「第39回 福岡県医療功労賞」受賞　2月1日

2　市川 光太郎
読売新聞主催
エーザイ・厚労省共催「第39回 日本医療功労賞」受賞　3月10日

3　市川 光太郎
第3回 日本子ども虐待医学研究会学術集会当番会長　7月23日－24日　北九州

4　市川 光太郎
第2回 日本小児救急医学会教育セミナー 主管　12月3日－4日

5　市川 光太郎
児童虐待鑑定：福岡県警田川署検事　6月14日
児童虐待鑑定：大阪府警堺署刑事　6月15日
児童虐待鑑定：福岡県警田川署検事　6月21日
児童虐待鑑定：福岡県警宗像署刑事　6月28日
児童虐待鑑定：大阪府警大阪南署刑事　7月5日
児童虐待鑑定：山口県警下松署刑事　12月1日
児童虐待鑑定：福岡県警筑紫野署検事・刑事　12月9日
児童虐待鑑定：福岡県警折尾署刑事　12月15日

内科

論文

1　慢性壊死性肺アスペルギルス症に対するアムホテリシンB脂質製剤4時間投与の安全性の後方視的検討
矢寺 和博、山崎 啓、神崎 未奈子、島内 真基子、川波 敏則、石本 裕士、粟屋 幸一、津田 徹、迎 寛
THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 2011； 64（5）：311－318

2　下気道感染症に対するシタフロキサシンの有効性と安全史の検討
迎 寛、矢寺 和博、長田 周也、山崎 啓、西田 千夏、川波 敏則、石本 裕士、吉井 千春、粟屋 幸一、川尻 龍典、今永 知俊
THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 2011； 64（5）：281－291

3　Clarithromycin has limited effects in non－elderly, non－severe patients with seasonal influenza virus A infection
Hiroshi Ishii, Kosaku Komiya, Kazuhiro Yateraa, Hiroshi Mukaea, Y. Awaya
Journal of Infection（2012）xx, 1－3

学会・研究会

1　粟屋 幸一
「COPDの正しい診断方法」パネルディスカッション
WINDセミナー　4月7日　北九州

講演

1　産業医科大学内科学講義（4年生）
「急性呼吸不全」 市立八幡病院　粟屋 幸一　4月4日　北九州
2　免疫・感染症フォーラム
「膠原病治療と肺感染症・薬剤性肺障害」
市立八幡病院　粟屋 幸一　9月5日　北九州

その他（座長など）

1　第19回 北九州レジデンツセミナー
「Lymphadenopathy」麻生飯塚病院 総合診療部 清田 雅智 先生　座長　粟屋 幸一　3月12日　北九州
2　第20回 北九州レジデンツセミナー
「血液ガス分析」麻生飯塚病院 総合診療部 清田雅智先生
「肺炎診療の考え方」産業医科大学 呼吸器内科 迎 寛 先生　座長　粟屋 幸一　6月12日　北九州
3　八幡喘息COPD研究会
特別講演「難渋するCOPDの診断とその治療戦略」獨協医大越谷病院 呼吸器内科 相良 博典 先生　座長　粟屋 幸一
7月26日　北九州
4　第21回 北九州レジデンツセミナー
「尿路感染症の基本」麻生飯塚病院 総合診療部 清田雅智先生　座長　粟屋 幸一　8月13日　北九州
5　福岡NPPV研究会
教育講演 「循環器疾患と睡眠呼吸障害」九州大学病院睡眠時無呼吸センター長 安藤 真一 先生　座長　粟屋 幸一
9月17日　北九州
6　第22回 北九州レジデンツセミナー
「脾腫のすべて」 麻生飯塚病院総合診療部 清田 雅智 先生　座長　粟屋 幸一　10月29日　北九州

循環器内科

学会研究会

1　ペーシングリードはどう見えるか
原田 敬 ひびき灘心血管エコークラブ　2月16日　北九州
2　大腿骨骨折後、重症下肢虚血に至った一例
林 克英
八幡PADカンファレンス　3月2日　北九州

3　異なる臨床経過を呈した劇症型心筋症の二症例（アワード獲得）
林 克英、上野 啓道、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、原田 敬、太﨑 博美
北九州循環器懇談会　3月11日　北九州

4　示説：エビデンズの見方 ValHeftの試験デザインについて
原田 敬
北九州循環器懇談会　3月11日　北九州

5　電撃性肺水腫で来院し、PCI、PTRAを施行した一例
大江 学治、原田 敬、上野 啓道、林 克英、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、太﨑 博美
ひびき循環器症例検討会　5月18日　北九州

6　示説：心エコー装置 調整のコツ　原理を知れば、設定も納得
原田 敬
ひびき灘心血管エコークラブ　6月8日　北九州

7　急性骨髄性白血病に対する抗がん剤治療にて重症薬剤性心筋症を発症した一例
林 克英、上野 啓道、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、原田 敬、太﨑博美
第110回 日本循環器学会九州地方会　6月25日　福岡

8　腎動脈狭窄症におけるIVUSを用いたプラーク分布状況の検討
鈴木 義之、原田 敬、林 克英、上野 啓道、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、太﨑 博美
第110回 日本循環器学会九州地方会　6月25日　福岡

9　腎動脈形成術後の残存狭窄による高血圧にアリスキレンが有効であった線維筋性異形 成の一例
上野 啓通、林 克英、大江 学治、今村 香奈子、鈴木 義之、小住 清志、原田 敬、太﨑 博美
第110回 日本循環器学会九州地方会　6月25日　福岡

10　ガチンコ対決！ 血管モデルを用いた各社バルーンカテーテルの通過実験
上野 啓道、原田 敬、林 克英、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、太﨑 博美
福岡TRI研究会　7月9日　福岡

11　症例提示
大江 学治
YMCカテ症例検討会　7月12日　北九州

12　失神の鑑別に苦慮した一例
小西 勇輝、上野 啓道、林 克英、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、原田 敬、太﨑 博美
八幡循環器カンファレンス　7月14日　北九州

13　薬剤溶出性ステントを留置後、抗血小板剤の継続について悩んだ一例
林 克英、上野 啓道、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、原田 敬、太﨑 博美
八幡循環器カンファレンス　7月14日　北九州

14　よろず相談コーナー
林 克英
八幡循環器カンファレンス　7月14日　北九州

15　ガチンコ対決！ 血管モデルを用いた各社バルーンカテーテルの通過実験
上野 啓道、原田 敬、林 克英、大江 学治、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、太﨑 博美
近畿トランスラディアル研究会　7月16日　大阪

16 Panel Discussion：Thinking about Regional Differences of Renal Artery Stenting
Takashi Harada
Cardiovascular Intervention Therapeutics Japan 2011　7月23日　大阪

17 4FrガイドカテーテルKIWAMIの使用経験
大江 学治、原田 敬、上野 啓道、林 克英、今村 香奈子、小住 清志、鈴木 義之、太﨑 博美
CVIT九州地方会　8月26日　鹿児島

18 長期間留置したDESをSlender Systemによる血管内視鏡で観察しえた2症例
今村 香奈子、原田 敬、大江 学治、上野 啓道、林 克英、小住 清志、鈴木 義之、太﨑 博美
Slender Club Japan in Sapporo Live Demonstration Course 2011　9月3日　札幌

19 示説：腎動脈エコーの計測法に関する一考察
原田 敬
北九州循環器懇談会　10月7日　北九州

20 Bilateral Iliac CTO
上野 啓通
八幡PADカンファレンス　10月12日　北九州

21 Endeavor（Driver）Sprintのdelivery性能と使用経験
原田 敬
Endeavor Hour in Kitakyushu　10月28日　北九州

22 薬剤性心筋障害が原因と思われる慢性心不全の二症例
林 克英
玄海心不全カンファレンス　11月10日　北九州

23 よろず相談コーナー
林 克英
八幡循環器カンファレンス　11月10日　北九州

24 アミオダロンにより間質性肺炎を呈した一例
林 克英
山口北九州福岡先端不整脈研究会　11月25日　北九州

著書

1 第2章；腎動脈 5.トラブルシューティング
原田 敬
EVTの基本とコツ　横井 宏佳 編　羊土社

2 二次性高血圧治療について
原田 敬
身近な医療シリーズ 毎日新聞

講演

1 腎動脈狭窄症の診断と治療～腎動脈エコーの意義
原田 敬
福岡市民病院院内講演会　3月4日　福岡

2　高血圧・慢性腎臓病における頚動脈・腎動脈エコー活用術
　　原田 敬
　　I'm TEP 講演会 in 門司　　3月7日　北九州
3　特別講演：肥大型心筋症のカテーテル治療
　　原田 敬
　　八幡循環器カンファレンス　　3月10日　北九州
4　高血圧診療における腎動脈エコーの有用性
　　原田 敬
　　八女市医師会学術講演会　　3月14日　八女
5　腎動脈エコーの実際
　　原田 敬
　　岐阜ハートセンター講演会　　4月16日　岐阜
6　高血圧の基本から指導まで
　　原田 敬
　　八幡東区健康相談員 健康講話　　4月28日　北九州
7　RAS ScreeningとInterventionの適応
　　原田 敬
　　熊本RASセミナー　　7月6日　熊本
8　特別講演「カテ屋さんのための最低限の心エコー 心機能評価編」
　　原田 敬
　　近畿トランスラディアル研究会　　7月16日　大阪
9　高血圧・慢性腎臓病における腎動脈エコー活用術
　　原田 敬
　　長崎エコーハンズオンセミナー　　7月29日　長崎
10　腎動脈疾患・心不全診療におけるエコー活用法
　　原田 敬
　　第一回 長崎心臓超音波医学研究会　　7月30日　長崎
11　治療抵抗性高血圧・慢性腎臓病における腎動脈エコーの有用性
　　原田 敬
　　福岡県保険医協会 北九州臨床研究会　　9月20日　北九州
12　不整脈臨床の実際
　　原田 敬
　　第8回 北九州薬剤師ハートカンファレンス　　11月7日　北九州
13　Gloval Vascular Intervention～これからの循環器医がめざすもの
　　原田 敬
　　第3回 北陸カンファレンス　　12月9日　高岡
14　動脈硬化性腎動脈狭窄症の診断　腎動脈エコーの実際
　　原田 敬
　　岐阜ハートセンター講演会　　12月17日　岐阜

その他（座長など）

1　座長：症例検討
　　原田 敬
　　YMCカテ症例検討会　2月15日　北九州

2　座長：AMI地域連携パス検討会 特別講演
　　原田 敬
　　AMI地域連携パス検討会　2月28日　北九州

3　座長：症例検討
　　原田 敬
　　八幡PADカンファレンス　3月2日　北九州

4　座長：症例検討
　　原田 敬
　　八幡循環器カンファレンス　3月10日　北九州

5　手術応援：腎動脈ステント症例
　　原田 敬
　　福岡市民病院　3月22日　福岡

6　司会：症例検討
　　原田 敬
　　八幡シネアンギオカンファレンス　4月18日　北九州

7　手術応援：腎動脈ステント症例
　　原田 敬
　　福岡市民病院　6月2日　福岡

8　座長：症例検討
　　原田 敬
　　YMCカテ症例検討会　7月12日　北九州

9　座長：症例検討
　　原田 敬
　　八幡PADカンファレンス　7月13日　北九州

10　座長：一般演題（末梢血管インターベンション）
　　原田 敬
　　第18回 CVIT九州沖縄地方会　8月27日　鹿児島

11　腎動脈ステントライブオペレーター
　　原田 敬
　　九州Joint Endovascular Therapeutics　10月15日　北九州

12　座長：Panel Discussion：Endeavor stentの使い方
　　原田 敬
　　Endeavor Hour in Kitakyushu　10月28日　北九州

13　座長：PCIライブデモンストレーション
　　原田 敬
　　第3回 CVIT九州・沖縄支部会ライブ　11月25日　福岡

14　手術応援：腎動脈ステント症例
　　原田 敬
　　福岡市民病院　　2月3日　福岡

小児科

著書・原著

1　熱性けいれん
　　石橋 紳作
　　小児救急治療ガイドライン 改訂 第2版：173－179　診断と治療社
2　頭痛
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：27－33　初版　中外医学社
3　熱性けいれん
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：34－37　初版　中外医学社
4　無熱性けいれん
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：38－52　初版　中外医学社
5　ウイルス性胃腸炎に伴うけいれん
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：53－55　初版　中外医学社
6　起立性調節障害（起立性低血圧）
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：56－60　初版　中外医学社
7　めまい
　　菱谷 好洋
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：61－68　初版　中外医学社
8　動悸（頻脈）
　　田中 亮
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：69－73　初版　中外医学社

9　蘇生薬
田中 亮
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：74－75　初版　中外医学社
10　蘇生維持薬
田中 亮
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：76－78　初版　中外医学社
11　気管支炎・肺炎
石橋 紳作
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：79－83　初版　中外医学社
12　気管支喘息
石橋 紳作
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：84－89　初版　中外医学社
13　クループ（症候群）
今村 徳夫
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：90－95　初版
14　中耳炎　4－1急性中耳炎
今村 徳夫
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：96－103　初版　中外医学社
15　中耳炎　4－2反復性中耳炎と滲出性中耳炎
今村 徳夫
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：104－105　初版　中外医学社
16　副鼻腔炎　5－1急性副鼻腔炎
今村 徳夫
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：107－111　初版　中外医学社
17　副鼻腔炎　5－2慢性副鼻腔炎
今村 徳夫
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：112－114　初版　中外医学社
18　腹痛
神薗 淳司
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：115－118　初版　中外医学社

19　嘔吐
　　野口 磨衣子
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：129－136　初版　中外医学社
20　便秘症
　　富田 一郎
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：137－141　初版　中外医学社
21　夜尿症と遺尿症
　　天本 正乃
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：142－147　初版　中外医学社
22　尿路感染
　　大橋 洋綱
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：148－156　初版　中外医学社
23　帯下
　　富田 芳江
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：157－164　初版　中外医学社
24　目やに・目が痒い
　　北川 篤史
　　市川 光太郎編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：185－186　初版　中外医学社
25　虫刺され 他
　　北川 篤史
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：187－190　初版　中外医学社
26　熱傷
　　西山 和孝
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：191－196　初版　中外医学社
27　解熱剤
　　神薗 淳司
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：197－200　初版　中外医学社
28　鎮痛
　　西山 和孝
　　市川 光太郎 編著
　　小児科外来診療での薬の考え方・使い方：201－203　初版　中外医学社

29　鎮静
西山 和孝
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：204－207　初版　中外医学社

30　経口補液
大橋 洋綱
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：208－215　初版　中外医学社

31　経口抗生剤の使い方 疾患・病態別の使い方
神薗 淳司
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：216－218　初版　中外医学社

32　セフェム系
北川 篤史
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：219－221　初版　中外医学社

33　マクロライド系
福政 宏司
市川 光太郎 編著
小児科外来診療での薬の考え方・使い方：222－224　初版　中外医学社

学会・研究会

1　特発性乳糜胸に対し胸腔鏡下胸管結紮術が有効であった1例
溝口 直子、神薗 淳司、富田 一郎、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎、新山 新、井上 征雄
第7回 九州沖縄小児救急医学研究会　2月5日　鹿児島

2　乳児期重症頭部外傷症例の長期予後と発達障害
井本 成昭、神薗 淳司、小野 友輔、藤田 弘之、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第7回 九州沖縄小児救急医学研究会　2月5日　鹿児島

3　急激に呼吸不全を呈し人工呼吸管理が必要であった細菌性気管炎の1例
藤野 光洋、神薗 淳司、神岡 哲治、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第7回 九州沖縄小児救急医学研究会　2月5日　鹿児島

4　一過性骨髄異常増殖症を経て発症した乳児t（X；6）転座型骨髄性白血病
寺師 英子、神薗 淳司、小野 佳代、福政 宏司、藤田 弘之、富田 一郎、北川 篤史、神岡 哲治、山根 浩昌、石橋紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第463回 日本小児科学会福岡地方会例会　2月12日　福岡

5　小児けいれん・意識障害の換気不全の実態と救急搬送時の抗炭酸ガス血症
石原 唯史、神薗 淳司、小野 佳代、福政 宏司、藤田 弘之、富田 一郎、北川 篤史、神岡 哲治、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第463回 日本小児科学会福岡地方会例会　2月12日　福岡

6　急性期治療に免疫吸着療法が奏功した全身性エリテマトーデスの3歳男児例
小野 佳代、神薗 淳司、福政 宏司、富田 一郎、北川 篤史、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第464回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月9日　福岡

7　急性期川崎病治療における静注用免疫グロブリン製剤のロット番号と治療効果
北川 篤史、神薗 淳司、小野 佳代、福政 宏司、富田 一郎、山根 浩昌、天本 正乃、市川 光太郎
第464回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月9日　福岡

8　視神経網膜炎を発症した猫ひっかき病の12歳女児例
富田 一郎、天本 正乃、神薗 淳司、北川 篤史、藤田 弘之、小野 佳代、福政 宏司、神岡 哲治、山根 浩昌、市川 光太郎
第464回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月9日　福岡

9　一般小児科医としての先遣隊派遣の経験から、「この大災害に小児科医はどう立ち向かうか～適切な初動と情報の共有化を目指して～」
福政 宏司、市川 光太郎
日本小児科学会緊急フォーラム　4月17日　東京

10　急性期川崎病治療における静注用免疫グロブリン製剤のロット番号と治療効果
北川 篤史、神薗 淳司、小野 佳代、福政 宏司、富田 一郎、山根 浩昌、天本 正乃、市川 光太郎
第10回 九州川崎病研究会　5月28日　佐賀

11　小児救急外来トリアージ精度向上への対策～教育効果の観点から～
西山 和孝、井本 成昭、富田 一郎、神薗 淳司、市川 光太郎
第14回 日本臨床救急医学会総会　6月3日　札幌

12　小児救急トリアージの現状に関する調査－3－トリアージのシステムと導入後の評価－第25回日本小児救急医学会総会
神薗 淳司　6月10日　東京

13　救急搬送時高炭酸ガス血症からみた小児けいれん・意識障害の換気不全の実態調査
石原 唯史、神薗 淳司、藤野 光洋、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月10日　東京

14　乳児期重症頭部外傷症例における遠隔期の合併症とその予後
井本 成昭、神薗 淳司、小野 友輔、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月10日　東京

15　外傷を繰り返す子どもに対する事故傾向予測検査を用いた助言・指導
藤田 弘之、神薗 淳司、小野 友輔、西山 和孝、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月10日　東京

16　小児毒素性ショック症候群に対する早期診断と治療介入の効果
谷岡 真司、神薗 淳司、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

17　急性期川崎病治療における静注用免疫グロブリン製剤のロット番号と治療効果
北川 篤史、神薗 淳司、福政 宏司、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

18　来院時高血糖症例の重症度および予後に関する検討
福政 宏司、神薗 淳司、今村 徳夫、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

19　多臓器不全に対し交換輸血が奏功したt（X；6）転座型白血病の乳児例
寺師 英子、神薗 淳司、小野 佳代、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

20　胸腔下胸管結紮術が奏功した特発性乳糜胸の乳児例
溝口 直子、神薗 淳司、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎、新山 新
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

21　当臓器不全を来たし、致死的な経過を辿った小児期ノロウイルス感染症の3例
藤野 光洋、神薗 淳司、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第25回 日本小児救急医学会総会　6月11日　東京

22　医療機関の見解の違いから虐待の社会的診断ができなかった症例
井本 成昭、天本 正乃、市川 光太郎
第3回 日本子ども虐待医学研究会　7月24日　北九州

23　傾向予測検査を利用した「傷害に遭いやすい」小児への介入
藤田 弘之、神園 淳司、井本 成昭、小野 友輔、天本 正乃、市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月12日　東京

24　乳幼児虫垂炎におけるPediatric Appendicitis Scoreの問題点
石原 唯史、神園 淳司、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月14日　東京

25　乳児期重症頭部外傷の長期予後を発達障害
井本 成昭、神園 淳司、小野 友輔、藤田 弘之、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月14日　東京

26　院外教育ワークショップ「小児救急トリアージ」の定期主催とその院内効果
神園 淳司、西山 和孝、富田 一郎、北川 篤史、福政 宏司、小野 友輔、藤田 弘之、天本 正乃、市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月14日　東京

27　急性期川崎病におけるプロカルシトニン値は有用であるか？
北川 篤史、神園 淳司、小野 佳代、藤田 弘之、福政 宏司、富田 一郎、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第114回 日本小児科学会学術集会　8月14日　東京

28　小児期脳梗塞症例の原因と予後
北古味 りか、神薗 淳司、小野 友輔、天本 正乃、市川 光太郎
第8回 九州沖縄小児救急医学研究会　8月20日　福岡

29　低血糖症例の検討
屋宮 清仁、福政 宏司、神薗 淳司、石橋 紳作、市川 光太郎
第8回 九州沖縄小児救急医学研究会　8月20日　福岡

30　PEWSSの導入とその結果
井本 成昭、小野 友輔、富田 一郎、福政 宏司、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第8回 九州沖縄小児救急医学研究会　8月20日　福岡

31　微小石灰化胸腺浸潤による気管閉塞で発症した乳児ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）
石原 唯史、神薗 淳司、竹井 寛和、松島 卓哉、牧 隆司、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第466回 日本小児科学会福岡地方会例会　10月8日　福岡

32　低血糖小児における血糖迅速測定の実施状況と課題
屋宮 清仁、福政 宏司、神薗 淳司、小野 友輔、小野 佳代、富田 一郎、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第466回 日本小児科学会福岡地方会例会　10月8日　福岡

33　川崎病治療における静注用免疫グロブリン製剤のロット番号に関する検討
北川 篤史、神薗 淳司、小野 佳代、小野 友輔、福政 宏司、富田 一郎、山根 浩昌、天本 正乃、市川 光太郎
第31回 日本川崎病学会　10月11日　横浜

34　メディカルコントロール体制整備を目的とした小児救急搬送傷病者データベースの構築とその課題
松島 卓哉、神薗 淳司、石原 唯史、井本 成昭、福政 宏司、伊藤 重彦、市川 光太郎
第39回 日本救急医学会総会　10月18日　東京

35　東日本大震災における小児災害医療にかかる諸問題
清水 直樹、六車 崇、神薗 淳司、井上 信明、斉藤 修、黒澤 寛史、中川 聡、阿部 世紀、植田 育也、羽鳥 文麿、市川 光太郎
第39回 日本救急医学会総会　10月18日　東京

36　小児Rapid response Teamの早期指導を目的とした
神薗 淳司、井本 成昭、福政 宏司、石原 唯史、松島 卓哉、市川 光太郎
Modified Bedside Pediatric Early Warning Score Systemの開発とその課題
第39回 日本救急医学会総会　10月19日　東京

37　小児救急搬送症例からみたFever phobia：発熱恐怖症の実態とその危険因子
福政 宏司、神薗 淳司、石原 唯史、井本 成昭、松島 卓哉、市川 光太郎
第39回 日本救急医学会総会　10月19日　東京

38　院内急変後ICU搬送症例からみた
井本 成昭、神薗 淳司、石原 唯史、福政 宏司、松島 卓哉、市川 光太郎
Bedside Pediatric Early Warning Score System（B－PEWSS）導入の意義
第39回 日本救急医学会総会　10月19日　東京

39　救急搬送時高炭酸ガス血症からみた小児けいれん・意識障害の換気不全の実態調査
石原 唯史、神薗 淳司、井本 成昭、福政 宏司、松島 卓哉、市川 光太郎
第39回 日本救急医学会総会　10月19日　東京

40　Bedside Pediatric Early Warning Score Systemと小児Rapid response Team活動演習
神薗 淳司、井本 成昭、福政 宏司、坂 尚美、北古味 りか、石原 唯史、藤野 光洋、小野 佳代、富田 一郎、山本 剛士、松島 卓哉、天本 正乃、市川 光太郎
第2回 日本小児救急医学会教育セミナー　12月4日　北九州

41　川崎病における免疫グロブリン（IVIG）療法開始前の抗生剤投与に関する検討
北川 篤史、神薗 淳司、南川 将吾、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第467回 日本小児科学会福岡地方会　12月10日　福岡

42　前胸部の腫脹を合併した流行性耳下腺炎の一例
福政 宏司、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第467回 日本小児科学会福岡地方会　12月10日　福岡

講演

1　当院における川崎病治療の現状と問題点
　北川 篤史
　第29回 北九州小児臨床懇話会　3月8日　北九州

2　「養護教諭と事故予防」
　神薗 淳司
　八幡医師会講演　3月3日　北九州

3　「発熱と危急病態」
　神薗 淳司
　新水巻病院講演会　5月11日　北九州

4　「血液腫瘍疾患と早期警告スコアリング」
　神薗 淳司
　産業医大 クリニカルヘマトオンコロジー研究会　5月13日　北九州

5　「パルボウイルス感染と再生不良性貧血」
　神薗 淳司
　北九州小児血液腫瘍懇話会　7月1日　北九州

6　「はじめようPEWSS」
　神薗 淳司
　小児救急医療ワークショップ主催　7月23日　北九州

7　「養護教諭と事故予防」
　神薗 淳司
　八幡西養護教諭会　8月30日　北九州

8　「発達障害と事故予防」
　神薗 淳司
　新水巻病院講演会　9月7日　北九州

9　PALS概念に基づく小児救急診療
　松島 卓哉
　第3回 シリーズ勉強会　12月12日　北九州

厚労省研究班研究事業報告書

1　神薗 淳司
　厚生労働省科学研究費補助金
　難治性疾患克服研究事業 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究
　進行性骨化異形成（FOP）の病態解明研究
　平成22年度 総合研究報告書「乳幼児FOPの早期診断」分担研究報告書

その他（座長など）

1　第8回 九州沖縄小児救急医学研究会
　神薗 淳司
　3演題発表　2月5日　鹿児島

2　ランゲルハンス細胞組織球症治療研究会
神薗 淳司　4月23日　東京
3　第5回 小児救急医療カンファランス
松島 卓哉
低血糖の2例　6月24日　飯塚
4　第9回 九州沖縄小児救急医学研究会
神薗 淳司
3演題発表　8月20日　福岡
5　産業医科大学クリニカルヘマトオンコロジー研究会
神薗 淳司　11月11日　北九州
6　第2回 日本小児救急医学会教育セミナー
松島 卓哉
救急現場で遭遇する子供虐待　12月4日　北九州
7　第2回 日本小児救急医学会教育セミナー
松島 卓哉
小児救急における病院前救護とMC体制　12月4日　北九州
8　第1回 北九州地区小児救急搬送事例検討会
松島 卓哉
痙攣重積発作　12月4日　北九州
9　第1回 北九州地区小児救急搬送事例検討会
松島 卓哉
高エネルギー外傷　12月4日　北九州

その他

1　日本小児救急医学会 第2回 北九州教育セミナー
神薗 淳司
担当企画 主催　12月3日　北九州
2　Triage & EWS 研究会
神薗 淳司
主催 司会進行 発表　12月10日　東京

外科・呼吸器外科

論文

1　大腸未分化癌の1例
和田 英雄 、伊藤 重彦、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、田口 尚
日本臨床外科学会雑誌 72：940－944　2011
2　消化管出血を来した胃GISTに対してTAEにて止血後切除しえた1例
若田 幸樹、伊藤 重彦、木戸川 秀生、渡邊 洋之助、田上 貴之、鬼塚 幸治、山吉 隆友、井上 征雄
日本腹部救急医学会雑誌 31：553－556　2011

3　凝固反応からみた敗血症の病態
岡本 好司、田村 利尚
Thrombosis Medicine vol.1 no.2　2011

4　小腸原発sarcomatoid carcinomaの1例
山吉 隆友、伊藤 重彦、木戸川 秀生、大谷 博
日本消化器外科学会雑誌 44（10）：1293－1299　2011

5　門脈ガス血症における保存的治療の適応に関する検討
木戸川 秀生、伊藤 重彦、鬼塚 幸治、山吉 隆友
日本消化器外科学会雑誌 44（11）：1355－1361　2011

6　腸閉塞で発見された肺癌の小腸転移の1例
荒井 淳一、伊藤 重彦、井上 征雄、木戸川 秀生、山吉 隆友
長崎医学会雑誌 86巻 3号：146－150　2011

学会・研究会

1　北九州地域で増加しているバンコマイシンのMICが低いVREについて
伊藤 重彦、松本 哲朗、谷口 初美、池野 貴子、森口 弘之、山口 征啓、永原 千絵、宮崎 博章、村谷 哲朗
第26回 日本環境感染学会　2月18日　横浜

2　地域における感染制御活動の利点と問題点
池野 貴子、伊藤 重彦、元石 和世、谷口 初美、松本 哲朗
第26回 日本環境感染学会　2月18日　横浜

3　術後5年で発症した胃癌小腸転移によるイレウスの1例
橋本 泰匡、伊藤 重彦、秋山 泰樹、濱田 聖暁、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生
第109回 北九州外科研究会　2月18日　北九州

4　胸腔鏡下手術が奏功した乳糜胸水の一乳児例
新山 新、伊藤 重彦、秋山 泰樹、濱田 聖暁、橋本 泰匡、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生
第109回 北九州外科研究会　2月18日　北九州

5　腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術の経験
新山 新、伊藤 重彦、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、濱田 聖暁、橋本 泰匡、秋山 泰樹
第36回 九州代謝栄養研究会　3月12日　長崎

6　東日本大震災－茨城県における北九州JMAT活動報告
伊藤 重彦
第10回 災害・救急医療フォーラム緊急セミナー　4月27日　北九州

7　突発性縦隔気腫症例の臨床的検討
井上 征雄、伊藤 重彦、山吉 隆友、郡家 聖史、馬場 雅之、新山 新、木戸川 秀生
第28回 日本呼吸器外科学会総会　5月12日　別府

8　胃癌術後5年で小腸転移による腸閉塞を来した1例
郡家 聖史、伊藤 重彦、馬場 雅之、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、木戸川 秀生
第48回 九州外科・小児外科　5月20日　宮崎

9　心筋梗塞後にハンドル外傷をきたしショックで搬送された1例
馬場 雅之、新山 新、井上 征雄、濱田 聖暁、橋本 泰匡、秋山 泰樹、山吉 隆友、伊藤 重彦、木戸川 秀生
第15回 日本救急医学会九州地方会　5月27日　佐世保

10　北九州市消防局救急ワークステーションと連携した病院前救急診療
井上 征雄、伊藤 重彦、石原 唯史、井口 雄一郎、溝田 新吾、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美
第15回 日本救急医学会九州地方会　5月27日　佐世保

11　救急救命士が行う静脈路確保の技術力維持・向上のために必要な項目調査
伊藤 重彦、井上 征雄、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美、櫛井 正喜
第14回 日本臨床救急医学会　6月3日　札幌

12　北九州市消防局救急ワークステーションと連携した救急隊員へのBLS効果測定
井上 征雄、伊藤 重彦、石原 唯史、井口 雄一郎、溝田 新吾、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美
第14回 日本臨床救急医学会総会　6月3日　札幌

13　鈍的胸部外傷による血気胸症例の検討
馬場 雅之、伊藤 重彦、古野 郁太郎、郡家 聖史、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生
平成23年度 第一外科同門研究会　6月25日　長崎

14　残胃に発生した胃未分化癌の1例
濱田 聖暁、伊藤 重彦、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、新山 新、橋本 泰匡、秋山 泰樹
第66回 日本消化器外科学会総会　7月13日　名古屋

15　胸腔鏡下手術が奏功した乳糜胸水の1乳児例
新山 新、伊藤 重彦、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、濱田 聖暁、橋本 泰匡、秋山 泰樹、溝口 直子、富田 一郎、神薗 淳司、市川 光太郎
第48回 日本小児外科学会学術集会　7月20日　東京

16　当院におけるメッシュ感染6例の経験
木戸川 秀生、伊藤 重彦、秋山 泰樹、濱田 聖暁、橋本 泰匡、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄
第9回 日本ヘルニア学会　8月1日　福岡

17　当院で経験した成人腸重積症例の検討
秋山 泰樹、伊藤 重彦、橋本 泰匡、濱田 聖暁、新山 新、山吉 隆友、木戸川 秀生
第47回 日本腹部救急医学会総会　8月11日　福岡

18　鈍的肝損傷に対するIVR症例の検討
木戸川 秀生、伊藤 重彦、秋山 泰樹、橋本 泰匡、濱田 聖暁、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄
第47回 日本腹部救急医学会総会　8月11日　福岡

19　術後感染症に対するゾシンの使用経験
伊藤 重彦、馬場 雅之
ゾシン発売3周年記念講演会　9月8日　北九州

20　鈍的胸部外傷における肋骨骨折合併血気胸症例の検討
古野 郁太郎、伊藤 重彦、井上 征雄、馬場 雅之、郡家 聖史、新山 新、山吉 隆友、木戸川 秀生
第30回 福岡救急医学会　9月10日　福岡

21　腸間膜回転異常を伴い診断に時間を要した穿孔性虫垂炎の1例
郡家 聖史、伊藤 重彦、馬場 雅之、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生
第30回 福岡救急医学会　9月10日　福岡

22　大腸穿孔性腹膜炎に対する術前予後判定因子の検討
山吉 隆友、伊藤 重彦、郡家 聖史、馬場 雅之、新山 新、井上 征雄、木戸川 秀生
第26回 日本救命医療学会総会　9月16日　千葉

23　感染症の学問体系とその接点－地域ぐるみの感染対策シンポジウム
伊藤 重彦
第81回 日本感染症学会西日本地方会学術集会　10月7日　北九州

24　消防法改正後の精神科救急の現状
伊藤 重彦
第6回 プレホスピタル・インホスピタルセミナー　11月1日　北九州

25　東日本大震災の医師会支援活動について
伊藤 重彦
第3回 八幡臨床研修医懇話会　11月5日　北九州

26　鈍的外傷による十二指腸損傷症例の検討
山吉 隆友、伊藤 重彦、郡家 聖史、馬場 雅之、新山 新、井上 征雄、木戸川 秀生、岡本 好司
第3回 Acute Care Surgery研究会学術集会　11月1日　東京

27　虫垂カルチノイドの4例
郡家 聖史、伊藤 重彦、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、新山 新、馬場 雅之
第73回 日本臨床外科学会総会　11月17日　東京

28　汚染手術の半開放創における術後感染の検討
馬場 雅之、伊藤 重彦、古野 郁太郎、郡家 聖史、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司
第24回 日本外科感染症学会総会　12月1日　志摩

29　MRSAとVRE ―パネルディスカッション―「耐性菌対策のポイント」
伊藤 重彦、中川 祐子
第2回 福岡感染制御研究会　12月10日　福岡

その他（座長など）

1　第10回 災害・救急医療フォーラム
伊藤 重彦
緊急セミナー「東日本大震災－被災地医療支援の現状と今後」　4月27日　北九州

2　第28回 日本呼吸器外科学会
伊藤 重彦
一般演題（ポスター）　5月12日　大分

3　平成23年度 第1回 北部福岡感染症研究会
伊藤 重彦
特別講演　5月18日　北九州

4　第15回 日本救急医学会九州地方会
伊藤 重彦
一般演題「胸部」　5月28日　佐世保

5　第11回 災害救急医療フォーラム in 北九州
伊藤 重彦
災害研修　7月19日　北九州

6　第9回 日本ヘルニア学会学術集会
木戸川 秀生
「重複ヘルニア（鼠径ヘルニア・大腿ヘルニアの合併等）術前・術中診断のコツ」　8月2日　福岡

7　第47回 日本腹部救急医学会
伊藤 重彦
一般口演「胃・十二指腸」　8月12日　福岡

8　第110回 北九州外科研究会
木戸川 秀生
一般演題司会　8月26日　北九州

9　北九州外科研究会
伊藤 重彦
特別講演 第110回　8月26日　北九州

10　第10回 北部福岡臨床救急セミナー
伊藤 重彦
特別講演　9月6日　北九州

11　第30回 福岡救急医学会
伊藤 重彦
シンポジウム「より良い医療連携のあり方」　9月10日　福岡

12　第81回 日本感染症学会西日本地方会学術集会
伊藤 重彦
一般口演 「感染対策」　10月8日　北九州

13　第81回 日本感染症学会西日本地方会学術集会
伊藤 重彦
第127回 ICD講習　10月8日　北九州

14　第3回 Acute Care Surgery
伊藤 重彦
一般口演 「炎症・出血」　11月16日　東京

15　第24回 日本外科感染症学会総会
岡本 好司
「深在性真菌症」　12月2日　三重

講演

1　VRE分離施設における感染対策
伊藤 重彦
新小倉病院院内感染対策研修会　1月28日　北九州

2　地域感染対策の現状について
伊藤 重彦
天心堂へつぎ病院院内感染対策研修会　2月25日　大分

3　注目すべき多剤耐性菌－現状と対策について
伊藤 重彦
平成23年度 感染対策研修会　3月1日　福岡

4　福岡県DMATとJMAT活動報告
伊藤 重彦
東日本大震災被災地支援報告会　5月31日　北九州

5　災害医療の現状と北九州市の取り組み
伊藤 重彦
東日本大震災における活動報告会　7月6日　北九州

6　標準予防策
伊藤 重彦
平成23年度 感染症対策指導者養成研修　7月23日　北九州

7　災害看護について
伊藤 重彦
北九州市八幡医師会看護専門学校同窓会講演会　8月7日　北九州

8　被災地医療支援報告－JMAT活動
伊藤 重彦
戸畑東ロータリークラブ例会　8月9日　北九州

9　VREの現状と地域感染対策
伊藤 重彦
平成23年度 医療安全研修会　9月13日　宗像

10　周術期の感染対策
伊藤 重彦
福岡県看護協会 感染管理研修会　10月5日　福岡

11　いま災害が起こったら、私たち医療チームはどう動くのか－北九州市の災害医療支援活動の現状
伊藤 重彦
北九州市防災フォーラム 2011　10月9日　北九州

12　地域感染対策の現状－耐性菌を中心として
伊藤 重彦
平成23年度 北九州市院内感染対策研修会　11月7日　北九州

13　ノロウイルス・インフルエンザ等感染症の発生状況と対策
伊藤 重彦
平成23年度 感染症予防研修会　11月14日　大野城

14　病院・診療所における感染対策－注意すべきウイルスと細菌
伊藤 重彦
第2回 山口地域感染制御カンファランス　11月26日　山口

15　血流感染－診断と治療
伊藤 重彦
福岡青洲会病院 院内感染対策研修会　12月26日　福岡

その他

1　木戸川 秀生
愛知JATEC（藤田保健衛生大学）講師　8月19日～20日　名古屋
大阪JATEC 講師　9月3日～4日　大阪

2　講義　伊藤 重彦

「周術期の感染対策」

産業医科大学医学部 2年生 感染・免疫学　11月7日　北九州

「災害医療と救急医療」

九州歯科大学 4年生 外科　11月29日　北九州

「病院前救護活動と感染対策」

公務員ビジネス専門学校救命士科　12月5日 12月14日　福岡

3　報告

伊藤 重彦

ワークステーション連携の報告

総務省消防庁救急業務高度化推進検討会 メディカルコントロール作業部会 第4回 会議　2月15日　東京

北九州地域の報告

総務省消防庁平成23年度 社会全体で共有する緊急度判定（トリアージ）体系のあり方検討会 緊急度判定プロトコル作成ワーキンググループ委員会 第1回 会議　11月25日　東京

4　寄稿

伊藤 重彦

食中毒対策　リビング北九州 1901号（7月9日発行）

熱中症対策　リビング北九州 1899号（6月25日発行）

「医師会の災害医療救護訓練はなぜ必要か」　福岡県医報 N0.1416（2月発行）

「北九州市の救急医療の現状と問題点−北九州地域救急業務メディカルコントロール協議会の立場から」北九州市医報 vol.646（5月1日発行）

北九州IMATによる茨城県における医療支援活動の報告　北九州市医報 vol.647（6月1日発行）

「北九州JMAT茨城ミッション−派遣決定までの経緯」北九州市八幡医師会報 vol.29（6月29日発行）

5　災害訓練・研修会講師

伊藤 重彦

1月8日 平成22年度 福岡県医師会災害時医療救護訓練（福岡県医師会館）

12月6日 第1回 北九州モデル災害研修会（八幡医師会館）

12月8日 第2回 北九州モデル災害研修会（八幡医師会館）

6　感染対策ラウンド（6医療機関・6回）

伊藤 重彦

1月8日・6月27日・12月19日・12月21日・12月28日（北九州市）12月28日（芦屋町）

7　毎日新聞座談会「患者塾」

伊藤 重彦

1月22日（遠賀・中間医師会館）2月26日（遠賀・中間医師会館）3月19日（遠賀・中間医師会館）4月23日（遠賀・中間医師会館）5月21日（遠賀・中間医師会館）6月25日（遠賀・中間医師会館）7月30日（遠賀・中間医師会館）8月27日（遠賀・中間医師会館）9月17日（遠賀・中間医師会館）10月1日（北九州国際会議場）

8　第39回日本磁気共鳴医学会大会市民公開講座と共催

11月3日（産業医科大學）12月3日（遠賀・中間医師会館）

9　取材
伊藤 重彦
新型インフルエンザ対策について　FBS放送　1月13日放送
「地域感染対策」
メディカルパートナリング　2011.3月号掲載
福岡県医師会JMAT活動報告会　西日本新聞　4月13日掲載
脳死移植の受け入れ体制について　読売新聞　11月18日取材

脳神経外科

学会・研究会

1　前下小脳動脈末梢部破裂動脈瘤の一例
溝田 新吾、野田 満、岩永 充人、越智 章
第14回 小倉脳神経IVRカンファランス　8月20日　北九州

2　多数のアミロイド小体を認めた両側視床病変の一例
溝田 新吾、野田 満、岩永 充人、越智 章
第29回 長崎脳神経外科研究会　12月5日　長崎

講演

1　脳卒中の診断と治療－3D－DSAの使用経験－
越智 章
第6回 プレホスピタル・インホスピタルセミナー　11月1日　北九州

整形外科

論文

1　吸収性骨接合材料を用いて治療した小児上腕骨小頭骨折の1例
黒木 綾子、野口 雅夫、辻 正二、銅川 博文、黒木 一央
整形外科と災害外科 2011； 60（4）：634－636

学会・研究会

1　軟部組織損傷を伴った踵骨骨折
黒木 綾子、黒木 一央 、野口 雅夫
第43回 福岡整形外科外傷研究会　4月23日　福岡

2　後方剪断力を伴う脛骨近位端骨折の1例
黒木 一央、辻 正二、銅川 博文、黒木 綾子、野口 雅夫
第13回 北九州整形外傷研究会　5月18日　北九州

3　小児前腕骨骨幹部骨折の治療成績
黒木 綾子、野口 雅夫、辻 正二、銅川 博文、黒木 一央
第90回 長崎整形外科懇話会　5月28日　長崎

4　小児前腕骨骨幹部骨折の治療成績
　　黒木 綾子、野口 雅夫、辻 正二、銅川 博文、黒木 一央
　　第121回 西日本整形・災害外科学会　　6月12日　福岡
5　整形外科を受診した他科疾患4例の経験
　　野口 雅夫、片山 修史
　　第24回 日本臨床整形外科学会学術集会　　7月17日　長崎
6　小児大腿骨骨幹部骨折の1例
　　黒木 一央、野口 雅夫、黒木 綾子
　　第44回 福岡整形外科外傷研究会　　10月22日　福岡
7　大腿骨転子下骨折 2例
　　黒木 一央、野口 雅夫、辻 正二、乗松 崇裕、黒木 綾子
8　第14回 北九州整形外傷研究会　　11月16日　北九州
9　大腿骨頸上骨折に対する逆行性髄内釘法の治療成績
　　辻 正二、野口 雅夫、乗松 崇裕、黒木 一央、黒木 綾子
　　第122回 西日本整形・災害外科学会　　11月26日　熊本

講演

1　骨折治療における最近の進歩
　　野口 雅夫
　　記念講演会　　11月19日　北九州

その他（講義・座長など）

1　運動器外傷のポイント（長崎大学医学部5年生）
　　野口 雅夫
　　（講義）　　3月30日　長崎
2　大腿骨頚部骨折
　　野口 雅夫
　　（座長）第37回日本骨折治療学会　　7月1－2日　横浜
3　特発性大腿骨頭壊死症の診断と治療
　　野口 雅夫
　　（座長）第24回日本臨床整形外科学会学術集会　　7月17日　長崎
4　第73回 北整会レントゲンカンファランス
　　野口 雅夫
　　（当番幹事）　　11月10日　北九州

形成外科

学会・研究会

1　bFGFとモイスキンパッドRを併用した熱傷の治療経験
　　西 建剛、田崎 幸博、石田 裕之
　　第21回 日本熱傷学会九州地方会　　2月19日　大村

2　治りにくい創傷を治すために「使える」テクニック
西 建剛、石田 裕之、田崎 幸博
第28回 北九州市立病院集談会　2月25日　北九州

3　当科における口唇裂鼻形成について
田崎 幸博、西 建剛、石田 裕之
日本形成外科学会九州支部学術集会第85回例会　3月12日　福岡

4　片側口唇裂においてNAMにより伸張された鼻翼の術後の変化
田崎 幸博、西 建剛、石田 裕之
第54回 日本形成外科学会学術集会　4月14日　徳島

5　熱傷創への綿状創傷被覆・保護材（エスアイエイドR）の使用経験
西 建剛、北川 恵理、田崎 幸博
第91回 長崎形成外科懇話会　5月21日　長崎

6　DeHaan法を応用した両側口唇裂の二次修正手術とその改良
田崎 幸博
第35回 日本口蓋裂学会学術集会　5月25日　新潟

7　bFGFとの併用に相応しい一般医療機器・創傷被覆材の模索
西 建剛、北川 恵理、田崎 幸博
日本形成外科学会九州支部学術集会 第86回 例会　6月25日　福岡

8　当科で行っている小児熱傷の局所療法
西 建剛、北川 恵理、田崎 幸博
日本形成外科学会九州支部学術集会 第87回 例会　10月15日　大分

9　片側口唇裂手術において立体的な対称性を得るための工夫
田崎 幸博、西 建剛、北川 恵理
第29回 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会　11月24日　東京

10　口蓋裂手術（Push back法）における粘膜欠損の早期治癒を得るための工夫
北川 恵理、西 建剛、田崎 幸博
第92回 長崎形成外科懇話会　12月3日　佐世保

講演

1　顔面の診療で役立つ形成外科的手技
田崎 幸博
八幡耳鼻科医会　3月16日　北九州

麻酔科

学会・研究会

1　4ヶ月乳児の乳糜胸に対する胸腔鏡下胸管結紮術の麻酔経験
金色 正広、石田 昌一
第7回 長崎麻酔研究会　1月29日　佐世保

講演

1　栄養と医療安全～チューブ・カテーテル管理に潜む危険～
　金色 正広
　八幡医師会医療安全講習会　10月25日　北九州

講習

金色 正広

福岡県医師会ACLSコース 2月6日 福岡
AHA－ACLSプロバイダーコース　3月19日－20日　福岡
AHA－PALSプロバイダーコース　6月18日－19日　福岡
日本麻酔科学会主催AHA－ACLSプロバイダーコース　6月25日－26日　福岡
AHA－ACLSプロバイダーコース　8月27日－28日　福岡
AHA－BLSヘルスケアプロバイダーコース　9月3日　北九州
AHA－BLSヘルスケアプロバイダーコース　9月4日　北九州
福岡TNT講習会　9月10日－11日　福岡
AHA－ACLSプロバイダーコース　10月22日－23日　福岡
北九州TNT講習会　11月12日－13日　北九州
AHA－BLSヘルスケアプロバイダーコース　11月26日　北九州
AHA－BLSヘルスケアプロバイダーコース　11月27日　北九州

眼科

学会・研究会

1　Three－dimensional helical computed tomographic dacryocystography for lacrimal drainage system obstructions.
　Takesue Y.
　第18回 欧州眼科学会　6月4－7日　ジュネーブ

2　Vitrectomy combined with scleral resection technique for macula hole retinal detachment in highly myopic eyes
　Kono T., Asato R., Takesue Y.
　第18回 欧州眼科学会　6月4－7日　ジュネーブ

3　涙嚢粘液瘤の3例
　武末佳子
　第231回 北九州眼科研修会　11月10日　北九州

その他

1　八幡医師会看護専門学院　講義

講演

1　泣かせない眼科をめざして
　武末佳子
　第3回 八幡病院医療連携の会　　2月10日　北九州

皮膚科

論文

1　エキシマライト療法により改善した小児の難治性尋常性白斑
　藤野 雅世
　Visual Dermatology Vol.10 No.8　2011

学会・研究会

1　診断のつきにくい症例（1）
　藤野 雅世
　平成23年 第1回 北九州皮膚懇話会　　1月27日　北九州
2　診断のつきにくい症例（2）
　藤野 雅世
　平成23年 第2回 北九州皮膚懇話会　　2月24日　北九州
3　診断のつきにくい症例（3）
　藤野 雅世
　平成23年 第3回 北九州皮膚懇話会　　3月24日　北九州
4　診断のつきにくい症例（4）
　藤野 雅世
　平成23年 第4回 北九州皮膚懇話会　　4月28日　北九州
5　診断のつきにくい症例（5）
　藤野 雅世
　平成23年 第5回 北九州皮膚懇話会　　5月26日　北九州
6　診断のつきにくい症例（6）
　藤野 雅世
　平成23年 第6回 北九州皮膚懇話会　　6月23日　北九州
7　診断のつきにくい症例（7）
　藤野 雅世
　平成23年 第7回 北九州皮膚懇話会　　7月29日　北九州
8　診断のつきにくい症例（8）
　藤野 雅世
　平成23年 第8回 北九州皮膚懇話会　　9月28日　北九州
9　診断のつきにくい症例（9）
　藤野 雅世
　平成23年 第9回 北九州皮膚懇話会　　10月27日　北九州

10　診断のつきにくい症例（10）
藤野 雅世
平成23年 第10回 北九州皮膚懇話会　11月22日　北九州

講演

1　“美しく治す”エキシマライトによる白斑の治療
藤野 雅世
第2回 八幡病院医療連携の会　2月17日　北九州

2　小児の白斑に対するエキシマライトによる治療－白斑臨床研究治療について－
藤野 雅世
桐蔭横浜大学 バイオメディカルエンジニアリングセンター　12月18日　福岡

救急科

論文

1　北九州市消防局救急ワークステーションと連携した救急隊への医師同乗指導
井上 征雄、伊藤 重彦、岩永 充人、溝田 新吾、石原 唯史、高瀬 忠、竹村 保美
日本臨床救急医学会雑誌 2011； 14（5）：620－624

学会発表

1　突発性縦隔気腫の臨床的検討
井上 征雄、伊藤 重彦、山吉 隆友
第28回 日本呼吸器外科学会　5月12－13日　別府

2　北九州市消防局救急ワークステーションと連携した病院前救急診療
井上 征雄、伊藤 重彦、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美
第15回 日本救急医学会九州地方会　5月28日　佐世保

3　北九州市消防局救急ワークステーションと連携した救急隊員へのBLS効果測定
井上 征雄、伊藤 重彦、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美
第14回 日本臨床救急医学会　6月3－4日　札幌

4　鈍的胸部外傷における肋骨骨折合併血気胸症例の検討
古野 郁太郎、井上 征雄、伊藤 重彦、岩永 充人、高瀬 忠、竹村 保美
第30回 福岡救急医学会　9月10日　福岡

その他（座長）

1　全国救急隊員シンポジウム
井上 征雄　2月4日　松山

その他

井上 征雄

1　東日本大震災にDMATチームとして出動　3月12－13日　仙台
2　JPTEC インストラクター参加　9月23日　福岡

3　福岡メディカルラリー スタッフ参加　11月26日　福岡
4　八幡医師会災害研修会インストラクター参加　12月6、8日　北九州

放射線科（医師）

学会・研究会

1　腸回転異常症に併存した壊疽性虫垂炎の一例
今福 義博
第267回 北九州画像診断部会　4月15日　北九州

放射線科（技師）

論文

1　『CT装置トラブル事例から検証した保守点検のポイント』
満園 裕樹
特別企画寄稿論文 月刊新医療 第38巻 第6号 No.438 p132～135

発表

1　『放射線用語、報道で見るいろいろな線量単位について』
河合 裕二
災害・救急医療フオーラム in 北九州　7月19日　北九州
2　『CT装置トラブル事例における多施設間での事例収集及び共有について』
満園 裕樹
第15回 全国X線CT技術サミット ポスター発表　8月6日　福岡
3　『救急の上肢撮影について』
九町 章博、宗吉 佑樹
撮影勉強会　11月6日　北九州
4　『CAS支援におけるCTの役割』
満園 裕樹
第4回 九州Joint Endovasculer Therapeutics 発表　10月15日　北九州
5　『バージョンアップ版CT装置トラブル対策システムについて』
満園 裕樹
第42回 北九州CT勉強会 司会　10月22日　北九州
6　『放射線の基礎知識』
河合 裕二
福岡県臨床検査技師会北九州支部 勉強会　11月29日　北九州

座長・司会

1　『CT技術最前線 ～ RSNA Report 2010 ～』
満園 裕樹
第41回 北九州CT勉強会 司会　2月4日　北九州

2　『救急医療における頭頸部撮影法と画像診断』
満園 裕樹
第9回 放射線総合画像フォーラム　3月12日　福岡

3　『第15回 全国X線CT技術サミット』
満園 裕樹　8月6日　福岡

4　『CT装置技術を再検討し、使いこなそう！』
満園 裕樹
第42回 北九州CT勉強会　10月22日　北九州

講演

1　『救急医療を取り巻く実状』
満園 裕樹
第9回 放射線総合画像フォーラム　3月12日　福岡

2　『CTよもやま話』
満園 裕樹
第4回 城南地域放射線技師学術研修会　11月12日　八代

検査科

学会・研究会

1　尿中肺炎球菌抗原検査と喀痰培養検査の比較検討
荒木 猛、松山 郁子
第21回 福岡県医学検査学会　7月3日　北九州

2　糖尿病と臨床検査（インスリン抵抗性・分泌能の指標について）
松本 誠也
福岡県臨床衛生検査技師会北九州支部生物化学部門 11月勉強会　11月29日　北九州

薬剤科

論文

1　Case－controlled Study on Risk Factors for the Development of Constipation in Hospitalized Patients
Ueki T, Nagai K, Ooe N, Nakashima MN, Nishida K, Nakamura J, Nakashima M
Yakugaku Zasshi 2011； 131（3）：469－476

2　第45回 ASHPミッドイヤー臨床薬学会議に参加して
植木 哲也
日本病院薬剤師会雑誌 2011； 47（4）：457－458

3　Cross－sectional Study on Relationship between Constipation and Medication in Consideration of Sleep Disorder
Ueki T, Nagai K, Mizukami Y, Takahashi A, Ooe N, Nakashima MN, Nishida K, Nakamura J, Nakashima M
Yakugaku Zasshi 2011；131（8）：1225－1232

学会・研修会

1　平成23年度 第2回 戸畑漢方研修会
福永 竜一　3月16日　北九州

2　専門薬剤師制度の取り組みについてのアンケート調査～2005年と2010年の比較～
原田 桂作、松本 知子、橋本 治、米谷 頼人、植山 寛、平川 剛、岩田 幸治、日高 博司、赤松 孝、増田 和久
日本薬学会 第131年会　3月29日　静岡

3　みんなで考えよう 糖尿病編
原田 桂作
北九州市立病院勤務薬剤師協議会勉強会　4月28日　北九州

4　滋腎明目湯の治験例の検討
福永 竜一
平成23年度 第4回 戸畑漢方研修会　5月17日　北九州

5　漢方治療治験3症例の検討
福永 竜一
平成23年度 第6回 戸畑漢方研修会　7月11日　北九州

6　最近の糖尿病事情－市立八幡病院の場合－
山本 朗子
八幡薬剤師会学術研修会～ハイリスク薬～　7月14日　北九州

7　がん化学療法施行患者のQOLにおける薬学的介入効果の検討
大内 かおり、原田 桂作、竹内 有花、増渕 真友美、真野 泰成、廣澤 伊織、加藤 芳徳、田島 正教、山田 治美、小瀧 一、旭 満里子
第1回 国際医療福祉大学学会学術大会　9月3日　大田原

8　血中薬物濃度とTDM解析（薬剤師の現場から）
植木 哲也
福岡県臨床衛生検査技師会北九州支部生物化学分析部門「9月勉強会」　9月13日　北九州

9　腎機能低下と食事摂取不良に関連したジスチグミン臭化物の有害事象を薬剤師の関与により回避した1症例
植木 哲也、毛利 由佳、坂本 佳子、長井 惠子、中嶋 弥穂子、中嶋 幹郎
第5回 日本腎と薬剤研究会学術大会 2011　9月18日　北九州

10　がん化学療法施行患者の不安・抑うつに対する薬剤管理指導の評価
大内 かおり、原田 桂作、竹内 有花、増渕 真友美、真野 泰成、廣澤 伊織、加藤 芳徳、田島 正教、山田 治美、小瀧 一、旭 満里子
第5回 日本緩和医療薬学会年会　9月24日　千葉

11　入院患者に対する薬学的介入の異なる病棟間での比較
植木 哲也、坂本 佳子、毛利 由佳、小山 泉、宮野 佳子、谷﨑 房代、平林 友紀子、水上 靖子、原田 桂作、姫野 英二、福永 竜一、山本 朗子、田﨑 奈緒子、橋口 靖、山下 正義、長井 惠子、中嶋 弥穂子、中嶋 幹郎
第21回 日本医療薬学会年会　10月1日　神戸

12　糖尿病患者の意識調査～行動変容と不安・抑うつ～
原田 桂作、宮野 佳子、坂本 佳子、長井 惠子、大江 宣春
第21回 日本医療薬学会年会　10月2日　神戸

13　加味逍遙散の応用と治験例の検討
福永 竜一
平成23年度 第8回 戸畑漢方研修会　10月11日　北九州

14　インスリン自己注射手技の入院時と退院時の比較調査
田﨑 奈緒子
第49回 日本糖尿病学会九州地方会　10月14日　福岡

15　四逆散の応用の実際と処方検討
福永 竜一
平成23年度 第10回 戸畑漢方研修会　12月15日　北九州

座長

1　会員報告
山下 正義
第3回 福岡県病院薬剤師会学術大会　3月6日　福岡

2　高血圧～基礎からもう一度～
原田 桂作
第7回 北九州薬剤師ハートカンファレンス　5月23日　北九州

3　ポスター発表：薬物療法・ガイドライン・薬剤管理指導業務・服薬指導・患者教育2
山下 正義
第5回 日本腎と薬剤研究会学術大会 2011　9月18日　北九州

4　フィジカルアセスメント初級導入指導
山下 正義
福岡県病院薬剤師会 第39回 新採用薬剤師教育研修会　9月25日　福岡

5　COPDのトータルケア
長井 惠子
北九州地区勤務薬剤師会（洞薬会）学術講演会　10月20日　北九州

6　一般演題・会員発表
坂本 佳子
北九州薬学フォーラム 2011　11月17日　北九州

7　慢性疼痛とブプレノルフィン
姫野 英二
八幡薬剤師会勤務部会学術講演会　11月25日　北九州

看護科

学会・研究会

1　DMATの活動を通した院内災害研修の取り組み
関谷 恵美子、川添 京子、梶原 小百合、橋本 真美、井筒 隆博、井上 征雄、伊藤 重彦（災害対策委員会）
第16回 日本集団災害医学会　2月12日　大阪

2　6ヶ月間IABPを挿入した患者の栄養管理を行い経口摂取までに至った一例
石本 晶、坂本 佳子、林 和子、金色 正広
第26回 日本静脈経腸栄養学会　2月17日　名古屋

3　衛生学的手洗いの意識向上に向けた取り組みと今後の課題 ～手洗いキャンペーンを実施して～
中川 祐子、小椋 裕美、原田 カヨ子、古川 恵子、草場 惠子、粟屋 幸一、伊藤 重彦
第26回 日本環境感染学会　2月18日・19日　横浜

4　「保護者の初期対応スキルアップ」を目的とした院外定期講習の試み
梶原 多恵、橋本 優子、井生 恭子、古川 恵子、神薗 淳司、市川 光太郎
第25回 小児救急医学会学術集会　6月10日　東京

5　頭部外傷再来外来での取り組みの現状と課題
橋本 優子、永松 真由美、林 和子、井本 成昭、藤田 弘之、神薗 淳司、市川 光太郎
第25回 小児救急医学会学術集会　6月10日　東京

6　外傷を繰り返す子どもに対する事故傾向予測検査を用いた助言・指導
藤田 弘之、神薗 淳司、井本 成昭、小野 友輔、天野 正乃、橋本 優子、梶原 多恵、市川 光太郎
第25回 小児救急医学会学術集会　6月10日　東京

7　初療におけるアセスメント－急変を防ぐには－ 外来トリアージと病棟早期警告スコアリング・システムによる小児アセスメントの標準化とその効果
橋本 優子
第30回 福岡救急医学会学術集会　9月10日　福岡

8　救急救命士の効果的な病院実習の検討～実習項目数向上にむけて～
船原 美津子、佐々木 知子、三好 博子、吉竹 洋子、酒井 文子、越智 美加、井上 征雄、伊藤 重彦
第30回 福岡救急医学会学術集会　9月10日　福岡

9　PTRA術後管理
角田 直也
第4回 九州 joint endovascular therapeutics　10月15日　北九州

10　頭部外傷により高次脳機能障害を呈した患者への看護介入－注意障害に着目した1症例－
波多野 妙
第31回 日本脳神経看護研究学会　10月22日　熊本

11　早期合併症を起こし、ストーマ管理に難渋した一症例
工合田 千世、中川路 敬子、吉武 知美、松本 真由美
第27回 九州ストーマリハビリテーション研究会　11月4日　福岡

12　外傷に対する小児救急トリアージの現状と対策
梶原 多恵、井本 成昭、神薗 淳司、市川 光太郎
第1回 Triage & Early Warning System 研究会　12月10日　東京

13　MRSAとVRE －パネルディスカッション－「耐性菌対策のポイント」
中川 祐子、伊藤 重彦
第2回 福岡感染制御研究会　12月10日　福岡

著書

1　地域の病院におけるトリアージの実際
　橋本 優子、梶原 多恵、神薗 淳司、西山 和孝、市川 光太郎
　へるす出版 小児看護 1月号 2011；34（1）：74－86
2　小児救急看護におけるトリアージQ&A
　橋本 優子
　へるす出版 小児看護 1月号 2011；34（1）：103
3　子どもの救急時における家族対応・支援
　橋本 優子
　日総研出版 こどもケア 8・9月号 2011；6（3）：17－22
4　小児頭部外傷再診外来
　橋本 優子、永松 真由美、林 和子、神薗 淳司、小野 友輔、井本 成昭、市川 光太郎
　へるす出版 臨床看護 10月臨時増刊号 2011；37（12）：1705－1713

講演

1　子育て勉強会
　梶原 多恵、橋本 優子
　北九州市立子どもの館　毎月第2木曜日　北九州
2　平成22年度 男2代の子育て講座－目指せソフリエ・パパシエ－
　梶原 多恵
　北九州市立子どもの館　2月20日　北九州
3　小児看護における救命救急技術
　梶原 多恵
　産業医科大学産業保健学部　7月6日　北九州
4　災害看護
　関谷 恵美子
　国際医療福祉大学　7月7日　福岡
5　ベッドサイド小児早期警告システムの実際と応用～はじめよう‼ スコアリングと院内急変対応チームの整備～
　梶原 多恵、橋本 優子
　第6回 小児救急ワークショップ in 北九州　7月30日　北九州
6　小児の応急手当と救命指導
　橋本 優子
　子育て支援サロン“ぴあちぇーれ”育児講座 第2期　8月20日　北九州
7　小児の応急手当と救命指導（実技編）
　橋本 優子、内田 美和、杉田 奈都子、永松 真由美、橋本 真美
　子育て支援サロン“ぴあちぇーれ”育児講座 第2期　8月20日　北九州
8　東日本大震災にDMATとして出動して
　井筒 隆博
　北九州市立医療センター　8月26日　北九州

9　平成23年度 男2代の子育て講座－目指せソフリエ・パパシエ－
梶原 多恵
北九州市立子どもの館　9月25日　北九州

10　災害看護
井筒 隆博
福岡県医師会館　9月25日　福岡

11　救急隊員病院実習の現状と問題点
越智 美加、船原 美津子、佐々木 知子、三好 博子、吉竹 洋子、酒井 文子、吉國 佐和子、井上 征雄、伊藤 重彦
第6回 プレホスピタル・インホスピタルセミナー　11月1日　北九州

12　災害看護の実際 ～東日本大震災での活動報告～
井筒 隆博
北九州地区看護学校教員協議会　11月17日　北九州

13　ベッドサイド小児早期警告システムの実際と応用 求められる「責任」と「連携」はじめよう‼ スコアリングと院内急変対応チームの整備
梶原 多恵、橋本 優子
第2回 日本小児救急医学会教育セミナー in 北九州　12月4日　北九州

14　子どもの病気やけが こんなときどうする？
梶原 多恵、橋本 優子、中川 祐子、永松 真由美、光吉 久美子
子育ちフェスタ　12月23日　北九州

その他

1　古川恵子
座長
第25回 日本小児救急医学会　6月10日　東京

2　高澤 浩美
座長
第30回 日本手術看護学会九州地区大会　9月10日　北九州

その他院内研究会など

病院局看護科職員研修

1　基礎研修Ⅰ
「感染防止」
中川 祐子
「安全と責任」
原 文子、木村 律子、高原 文子
「看護倫理」
林 和子　6月8・9・27日

2　基礎研修Ⅲ
「後輩指導」
兼田 朋子、高澤 浩美　10月13・14日

看護科職員研修

1　平成22年度「第1回伝達研修」
「臨床倫理の考え方－倫理問題を個人の悩みにしないため」
「患者のQOLを高めるためのフットケアー」
上田 朋子、工藤 智佳、田中 美子、伊東 知佐子、徳永 裕美、松本 真由美　1月13日

2　平成22年度「2年目研修」
「メンバーシップ」
光吉 久美子、岡崎 優子、兼田 朋子、牧野 照子　2月17日

3　平成23年度「第1回新規任用者研修」
「事故防止」
佐藤 奈々絵、原 文子、肥後 廣美、高原 文子　4月4日・4月5日・4月6日
「看護記録」
「感染管理・感染対策」
矢野 美佑紀、郷田 ありさ、中川 祐子、川崎 美代子、酒井 文子、高原 文子　4月5日
「基礎看護技術 注射法」
岡崎 優子、小舟 美穂、鞭馬 友美、光吉 久美子、酒井 文子、高原 文子　4月6日

4　平成23年度「第2回新規任用者研修」
「医療機器の取り扱い方・輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター」　5月19日

5　平成23年度「第3回新規任用者研修」
「褥瘡対策・ポジショニング・背抜き」
「BLS研修」
渡邊 紘子、内田 宏美、徳永 裕美、酒井 文子、高澤 浩美、高原 文子　6月16日

6　平成23年度「第4回新規任用者研修」
「急変時の対応について」
岡崎 優子、江崎 亜衣、兼田 朋子、高原 文子　7月7日

7　平成23年度「2年目院内研修」
「リーダーシップ」
野村 美映子、小舟 美穂、松本 真由美、高原 文子　8月4日

8　平成23年度「第5回新規任用者研修」
「災害看護」
「看護記録」
「多重課題・時間切迫に関するシュミレーション」
関谷 恵美子、武内 郁美、山口 敦子、徳永 裕美、船原 美津子、高本 秀美、高原 文子　10月7日

9　平成23年度「第1回伝達研修」
「脳卒中リハビリテーション認定看護師とは」
波多野 妙 、田中 美子、宗 育子、野村 美映子、松本 真由美　12月6日

10 「第1回 委託業者研修」
－標準予防策・感染経路別予防策、正しいプロテクターの着脱、清掃カートの取り扱い－
木下 美和、小椋 裕美、中村 一貴、土岐 美穂、中川 祐子、坊野 美津子 5月31日

11 「第1回 看護補助者研修」
－標準予防策・感染経路別予防策、正しいプロテクターの着脱、便尿器の取り扱い－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 6月3日

12 「第2回 看護補助者研修」
－標準予防策・感染経路別予防策、正しいプロテクターの着脱、便尿器の取り扱い－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 6月10日

13 「第3回 看護補助者研修」
－標準予防策・感染経路別予防策、正しいプロテクターの着脱、便尿器の取り扱い－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 6月23日

14 「第1回 看護科感染管理研修」
－基本の感染対策－
原 京子、廣木 あゆみ、半田 和枝、上野 聡子、大村 奈々、折田 愛、中川 祐子、藤田 寿美子 7月29日

15 「第2回 看護科感染管理研修」
－基本の感染対策－
原 京子、廣木 あゆみ、半田 和枝、上野 聡子、大村 奈々、折田 愛、中川 祐子、藤田 寿美子 11月30日

16 「第4回 看護補助者研修」
－おむつ交換－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 12月2日

17 「第5回 看護補助者研修」
－おむつ交換－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 12月5日

18 「第6回 看護補助者研修」
－おむつ交換－
井上 裕美、工藤 智佳、山之内 妙子、藤川 唯智子、中川 祐子、坊野 美津子 12月9日

看護科接遇委員会研修

1 平成23年度 第1回 看護科院内接遇研修
田端 朋子、小玉 久美、森永 加代子、高森 雅子、原田 かをる、米澤 美穂子 8月29日

看護科記録委員会研修

1 第1回 看護記録研修－当院の記録について
武内 郁美、長田 弘子、山口 敦子、加藤 由華、井生 恭子 9月9日

看護科事故防止研修

1 平成23年度 第1回 事故防止研修
「医療安全に対しての意識向上を目指す」
金 瑛華、三好 博子、三島 照枝、中村 八重子、原 文子、古川 恵子 6月30日

2　平成23年度 第2回 事故防止研修
「医療安全に対しての意識向上を目指す」
金 瑛華、三好 博子、三島 照枝、鶴田 麻衣、中村 八重子、原 文子、古川 恵子　12月1日

看護科褥瘡対策研修

1　平成23年度 第1回 看護科褥瘡研修
渡邊 紘子、工合田 千世、小村 晶、木下 章子、髙澤 浩美　7月21日

院内看護研究発表会　10月21日

1　救急救命士の効果的な病院実習の検討 ～実習項目数向上に向けて～
三好 博子、佐々木 知子、船原 美津子、吉竹 洋子、酒井 文子、越智 美加（救急外来）
2　在宅での胃ろうを有する患者とその家族への看護介入を試みて
武谷 貴代美、松永 直美、小椋 裕美、坊野 美津子（外来）
3　経口摂取困難となった患者の口腔ケアへの取り組み ～勉強会による意識変化の状況分析～
岡本 美沙、太田 美代子、行比 知子、大峯 佳奈（西6階病棟）
4　大腿骨骨折・胸腰椎圧迫骨折の深部静脈血栓症予防に向けた取り組み
田中 美子、花見 待子、矢野 美佑紀、杉本 佳菜、後藤 弘美（西5階病棟）
5　食物アレルギー疾患の乳幼児を持つ母親への食事指導内容の検討 ～母親へのアンケート調査結果から～
古田 恵美、山田 友美、中崎 貞子、杉田 奈津子、梶原 多恵、原田 かをる、高原 文子（西4階病棟）
6　患者参加の安全なドレーン管理を目指して
越智 千佳、伊村 ときえ、山之内 妙子、松本 真由美（西3階病棟）

アレルギー教室

1　市川 光太郎、中﨑 貞子、杉田 奈都子、古田 恵美、梶原 多恵、原 美穂、山田 友美、橋本 優子、永松 真由美、井生 恭子、高原 文子、原 眞理　3月17日・3月24日
2　市川 光太郎、中崎 貞子、藤波 志生子、山下 美代、古田 恵美、山田 友美、梶原 多恵、金屋 美千代、小野久美子、永松 真由美、井生 恭子、原田かをる、原 眞理　11月10日・11月17日

骨粗鬆症教室

1　野口 雅夫、折田 愛、寺地 亜希、坊野 美津子　3月7日・9月5日

糖尿病教室

1　糖尿病と合併症
末永 章人
1月24日・2月21日・3月28日・4月25日・5月23日・6月20日・7月25日・8月22日・9月26日・10月24日・11月21日・12月19日
2　薬・インスリン
姫野 英二、宮野 佳子、平林 友紀子
1月24日・2月21日・3月28日・4月25日・5月23日・6月20日・7月25日・8月22日・9月26日・10月24日・11月21日・12月19日

3　生活・運動
下薗 亜希子、藤嶋 寛子、植田 啓子、角田 直也、山崎 悦子
1月27日・2月24日・3月27日・4月28日・5月26日・6月23日・7月28日・8月25日・9月29日・10月27日・11月24日・12月22日

4　食事療法
渡辺 響子、石坂 綾子、原 眞理
1月27日・2月24日・3月31日・4月28日・5月26日・6月23日・7月28日・8月25日・9月29日・10月27日・11月24日

糖尿病食事会

1　糖尿病食の実際
石坂 綾子、原 眞理　3月9日・10月12日

2　食事会・相談
末永 章人、渡辺 響子、石坂 綾子、原 眞理　3月9日・10月12日

糖尿病栄養教室　5月25日

1　糖尿病の食事療法
渡辺 響子

2　食品交換表演習
石坂 綾子

3　食事会・質疑応答
末永 章人、下薗 亜希子、山本 朗子、渡辺 響子、石坂 綾子、原 眞理、中野 好生 、藤 常明

4　血糖検査
下薗 亜希子

ICT講習会

1　平成23年度 第1回 講習会　3月15日
「八幡病院と若松病院におけるVRE発生経過報告」
伊藤 重彦（ICT委員長・外科ICD）
「VREスクリーニングの手順」
石田 雅巳（臨床検査科）
「VRE感染対策と経過報告」
中川 祐子（ICN）

2　平成23年度 第2回 講習会　5月17日
「平成22年耐性菌分離状況報告」
荒木 猛（臨床検査科）
「指定抗菌薬使用状況とTDM」
植木 哲也（薬剤科）
「JANISサーベイランス報告・EPINet報告」
中川 祐子（ICN）

3　平成23年度 第4回 講習会　8月9日
「何がなくとも血液培養」
粟屋 幸一（内科ICD）

院内クリニカルパス大会

座長　粟屋 幸一　3月11日
1　クリニカルパス作成･運用基準及び記載方法の改訂について
木戸川 秀生（外科）
2　西3階における日めくりパスの現状について
西3階病棟　木戸川 秀生（外科）、林 久恵、松本 真由美（看護科）
3　チーム医療と心カテパス
西6階病棟　渡部 太一（循環器内科）、久山美菜、高本 秀美（看護科）
4　小児ソ径ヘルニアパスの改訂
東4階病棟　富田 一郎（小児科）、稲垣 久仁子、井生 恭子（看護科）

院内心エコーカンファレンス（毎月）

原田 敬

医療安全管理研修会

1　平成22年度 第6回 医療安全管理研修会　3月3日
「リスクマネジメント部会報告会」
野口 雅夫（副院長）、行比 知子（看護科）、山下 正義（薬剤科）
荻野 和寿（放射線科）、渡辺 響子（栄養管理係）
2　平成23年度 第1回 医療安全研修会　7月25日
「がん化学療法と登録レジメンとその運用」
原田 桂作（薬剤科　がん薬物療法認定薬剤師）
3　平成23年度 第2回 医療安全研修会　10月18日
「輸液ポンプ･シリンジポンプによるエラーを防ぐために」
牧瀬 久美子（ME室　臨床工学士）
4　平成23年度 第3回 医療安全研修会　12月7日
「宗教的輸血拒否に関する法的問題について」
顧問弁護士　田村 雅樹

外科病棟勉強会　9月2日

がん化学療法勉強会～経口抗がん剤について～
原田 桂作

褥瘡対策セミナー 2月28日

1　平成22年度 褥瘡発生の状況
　安部 幸恵
2　褥瘡ラウンドの報告
　下薗 亜希子
3　褥瘡研修報告
　内田 宏美

NSTランチタイムミーティング

1　研修報告会 NST専門療法士
　坂本 佳子（薬剤科） 6月21日、28日
2　栄養状態の評価
　金色 正広（麻酔科） 7月5日
3　当院の濃厚流動食等について
　渡辺 響子 9月27日
4　カテーテルドレーンに潜む危険
　金色 正広（麻酔科） 1月1日
5　効果検討グループ報告
　川崎 美代子（看護科） 11月22日
6　効果検討グループ報告
　松山 郁子（検査科） 11月29日
7　病院食とコストの話し
　石坂 綾子（栄養科） 12月20日

臨床検査科生化学勉強会

　NSTにおける臨床検査科の取り組み 5月24日
　松山 郁子

骨粗鬆症相談教室

　食事療法
　渡辺 響子、原 眞理 3月7日・9月5日

5

委員会報告

ICT委員会

委員長:副院長　伊藤 重彦

1. ICT委員会の活動について

1) はじめに

当院は1999年にVRE院内感染を経験しました。1996年に「欧米のやっかいな耐性菌」が日本上陸してからわずか3年後のことであり、当時フットワークのよかった院内感染対策委員会（ICC）も大混乱でした。その経験から、(1) 職員への感染対策教育、(2) 効果的な感染対策の立案と実践、(3) アウトブレイク時の迅速な対応を目的に、2001年にICT活動を開始、2003年に現在のICT委員会が組織されました。現在のICT委員会は院内最大規模の委員が集まっており、職員教育、サーベイランス等活動をはじめ、感染対策に関する様々な行動計画を責任持って立案しています。

2) ICT組織

ICT組織は、病院長直属の感染制御室とICCの下部組織としてのICT委員会で構成されています（図参照）。感染制御室では、院内感染発症の早期発見のため、院内の微生物分離動向、隔離室使用状況、アクティブサーベイランス情報など感染管理に関するデータを感染管理室長（ICD）と専従の感染管理認定看護師（ICN）のもとに集約し、リスク分析を行っています。また2004年からは、北九州地域感染対策の一環として、NPO法人KRICT（北九州地域感染制御ティーム）と連携して、高齢者施設の感染対策リーダー養成コースの指導者派遣、あるいは地域施設からの感染対策に対する相談窓口として活動しています。当院のICT委員会の構成メンバーを表1に示しますが、通常の関係職種に加え、院内職員では歯科衛生士、臨床工学技士、保育士、滅菌技師、委託業者では清掃、リネン・洗濯、医療廃棄物の担当者など、微生物伝搬リスクのある職種すべてのかたにICT委員会に参加してもらうようにしています。

（感染制御室長　伊藤 重彦）

2. 職員教育・研修について

ICT委員会では、リンクナースとICNが中心となり、感染管理研修を実施しています。2009年以降、北九州地域ではVCMのMICが低いVREが流行しており、当院でもVREの院内感染を経験しました。VRE保菌部位として、最も菌量が多いのは糞便中と尿中であるため、研修では必ず排泄介助の演習を取り入れています。看護科職員研修では、標準予防策と経路別感染予防策の講義、感染対策の視点からみるオムツ交換、気管内吸引、吐物処理などの演習を行います。看護補助者研修では、接触感染対策、飛沫感染対策についての講義、便器を使用した排泄介助、下痢をしている患者のオムツ交換の演習を行います。また、外部の委託業者に対しても全員参加の研修会を年複数回実施しています。

研修内容を計画する際、担当リンクナースは、実際に現場に出向いて対象者の動きを確認し、何が問題なのか、どこを注意すればよいのかなどチェックします。ゴミ収集や清掃においては早朝に出向き現場を確認することもありました。講義は出来るだけわかりやすく、対象に合わせた言葉を用い、演習では現場に近い状況を作るため模擬の便や痰を作成し、参加者が楽しみながら技術の習得ができるように工夫をしています。ICNは、研修計画の立案から関わり、リンクナースの指導や研修についてのアドバイス等を行い、リンクナースが主体的に活動できるようにしています。ICT活動内容の職員へのフィードバックとして、ICTニュースやラウンド報告書の発行、患者向け病院紙の記事作成などをICT委員が持ち回りで行っています。

（感染管理認定看護師　中川 祐子）

インフェクションコントロール（ICT）委員会（表1）

- 副院長（感染制御室長）
- インフェクションコントロールドクター
- 診療科の代表医師
- 医療安全管理室担当課長　ICT担当看護師長、
- 感染制御室主任（専従感染管理認定看護師）
- リンクナース
- 薬剤科・臨床検査科・放射線科技師・保育士
- 栄養管理係・リハビリテーション室
- 歯科衛生士・臨床工学技士・滅菌技師
- 委託業者（清掃、リネン・洗濯、医療廃棄物）
- 事務局

リスクマネジメント部会

委員長：副院長　野口 雅夫

平成13年11月、「北九州市立八幡病院医療安全管理指針」に基づき、リスクマネジメント部会（以後部会とする）が設置され、円滑な運営を図るために運営要綱が定められた。

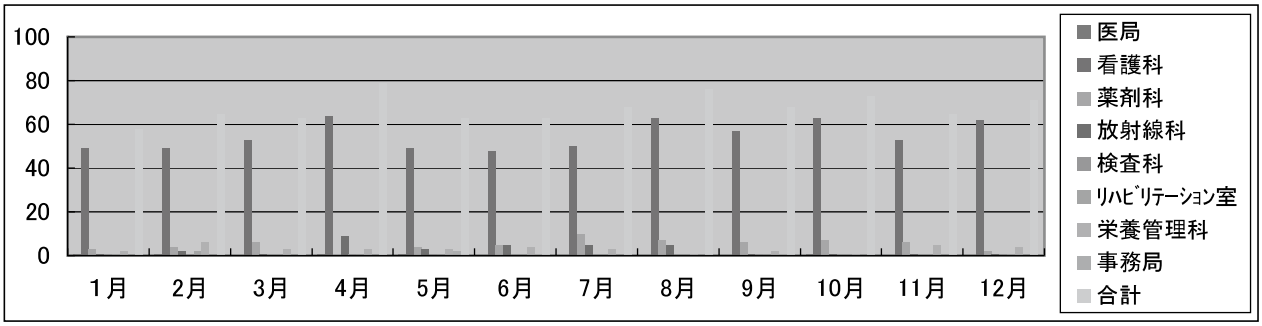
部会の活動内容は、主にインシデント・アクシデント報告書の事例報告、原因の分析、再発防止対策の検討及び提言に関する事である。部会に部会長を置き、院長の指名する副院長が任命される。部会は、次の職員で構成されている。医療安全管理室は、部会委員長（副院長）、医療安全担当次長、医局からは、医局長、病棟部長、外来部長、看護科は副総看護師長、看護師長、薬剤科は副部長、放射線科は診療放射線技師長、臨床検査科は臨床放射線技師長、事務局は管理課長、栄養管理係長、臨床工学技士、リハビリテーション室から理学療法士長、以上25名である。

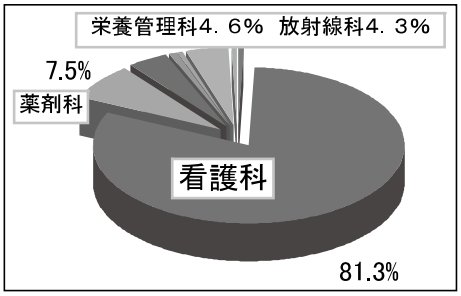
部会は、毎月1回定期的に開催され、会議の内容を記録し医療安全管理委員会に報告する。

部会の活動として、年間3回以上の研修会の開催や、各部署の院内ラウンドも月1回実施している。平成23年のインシデント・アクシデント報告書の報告は、毎月平均70件、年間812件であった。（表　参照）そのデーターは年1回、病院局医療安全管理委員会より包括公表と共に、医療事故発生の項目と、その改善策として報告されている。報告内容の主な項目は、転倒・転落、チューブライントラブルであり、次

平成 23 年インシデント・アクシデント報告書の各部門別提出状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率
医局	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	5	0.6%
看護科	49	49	53	64	49	48	50	63	57	63	53	62	660	81.3%
薬剤科	3	4	6	1	4	5	10	7	6	7	6	2	61	7.5%
診療放射線科	1	2	1	9	3	5	5	5	1	1	1	1	35	4.3%
臨床検査科	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	6	0.7%
リハビリテーション室	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0.5%
栄養管理科係	2	6	3	3	3	4	3	1	2	1	5	4	37	4.6%
事務局	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	4	0.5%
合計	58	65	63	79	63	63	68	76	68	73	65	71	812	100%





に与薬である。この項目は毎年同じ傾向にあり、他の医療施設ほぼ同様であることから、継続的に組織的な問題点として、取り組まなければならない課題である。

医療安全に対する取り組みは、そもそも国が平成14年医療法改正で医療安全に関する方針を掲げた。更に、平成19年医療法改定では、医療安全管理指針の作成、職員研修の実施、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者のもと部会等の委員会設置、改善のための方策を定めた。院内では、医療安全に関する報告会も毎年開催され、各部門がインシデント・アクシデント報告書の原因分析、改善策を提示、情報の共有は勿論、再発防止に取り組んでいる。しかしながら、毎月の定例部会の報告だけでは、全事例を検討するには時間的制限があることから、今後は、インシデント・アクシデント報告の原因分析に重点を置いた、組織的な取り組みを考えて行きたいと考える。

また、医療安全に関する職員研修会は、医療法改正後、職員が年間2回以上の出席が必要であると定められていることから、職員の参加状況を考えて、今年から昼休み時間に、DVDに収めた研修会も行っている。研修会に一人でも多くの職員が参加でき、医療安全に対して興味や関心がもてる内容にするために、研修会の企画運営を検討していきたい。

今後も、職員の皆様の期待に応えられるような部会として活動を、組織横断的に計画し、医療安全の醸成に向けて、医療安全の推進に全力で取り組んで行きたいと考える。

（医療安全管理室　古川 恵子）

クリニカルパス委員会

委員長:内科主任部長　粟屋 幸一

クリニカルパス委員会は、当院各診療科から提出されたクリニカルパスの検討と承認、登録を行ないます。

現在、34のパスが稼動しており、2011年には「結腸切除術」（外科）、「小児橈骨遠位端骨折抜線」（整形外科）の二つが承認されました。（表1）

また、3月11日には、第7回クリニカルパス大会が開催され、4演題の報告と活発な討論がなされました。（表2）

当院のクリニカルパス運用目標数は70としておりますが、電子カルテの導入を睨んで、電子パス化の検討も同時に進めて行く必要があります。

また、開発、運用のみならず、バリアンスの解析を進め、「業務改善」「セーフティ･マネジメント」へと結びつけて行く必要があります。

（表1）

クリニカルパス一覧

内　科	大腸ポリペクトミー
循環器内科	心臓カテーテル検査
小児科	肺炎
	RS ウイルス感染症
	小児鼠径ヘルニア
	低身長
	包茎
	停留精巣
	ステント抜去
	小児斜視
	小児外眼部手術
	鼓膜チュービング術
外　科	腹腔鏡下胆嚢摘出術
	大腸内視鏡・ポリープ切除
	成人鼠径ヘルニア根治術
	虫垂切除術
	胃十二指腸潰瘍穿孔（手術療法）
	胸腔鏡下肺部分切除術
	胃十二指腸潰瘍穿孔（保存療法）
	痔核根治術
	結腸切除術
	肝動脈塞栓化学療法
	成人腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術
整形外科	人工骨頭置換術
	小児上腕骨顆上骨折抜線
	小児橈骨遠位端骨折抜線
脳神経外科	脳血管造影
	頚動脈ステント留置術
形成外科	顎裂
	口蓋裂（Push Back 法）
	口蓋裂（Furlow 法）
	片側口唇裂
	両側口唇裂
	副耳
	副耳（1 泊 2 日）
産婦人科	子宮内容除去術
眼　科	白内障手術

（表2）

第７回 クリニカルパス大会

日　　時 ： 平成23年3月11日（金） 17：30～18：45

場　　所 ： 2階大会議室

司会進行 ： 粟屋幸一　関谷恵美子

番号	演題名（○は発表者）
1	クリニカルパス作成・運用基準及び記載方法の改訂について （オーバービュー、日めくり記録、患者用クリニカルパス等） 外科　○木戸川秀生
2	西3階における日めくりパスの現状について 西3階病棟　看護科・外科 ○木戸川秀生 ○林　久恵　　松本眞由美
3	チーム医療と心カテパス 西6階病棟　看護科・循環器科 ○渡部太一 ○久山美菜　高本秀美
4	小児ソ径ヘルニアパスの改訂 東4階病棟　看護科・小児科 ○富田一郎 ○稲垣久仁子　井生恭子

主催:クリニカルパス委員会

医療連携室運営委員会

委員長：副院長　太﨑 博美

1. 概要・スタッフ構成

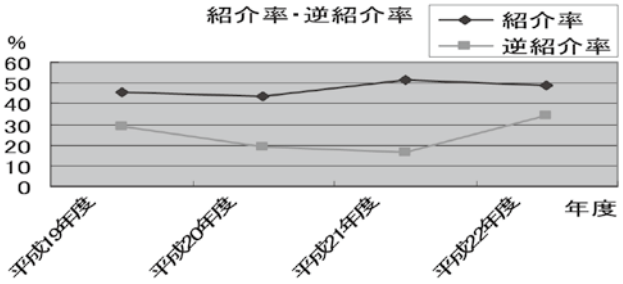
地域医療連携室は、地域の先生方からの温かいご支援のもと本年で5年目を迎えることができた。平成23年度に専任の看護師を配置し、現在では、MSW3名、事務1名の合計5名の担当者で地域の医療に貢献できるように積極的に医療連携に取り組んでいる。地域の医療機関の先生方にご紹介いただいた患者さんに安心して受診して頂くことや、地域の先生方との連絡を密にし、連携の窓口としての地域の先生と当院医師や患者さんの気持ちを繋げる橋渡しとして、お役に立てるよう活動している。また、毎年2月に医療連携会を開催している。

医療連携室運営委員会では、医療連携室長をはじめ、内科・外科・小児科の医師、コメディカルスタッフ、病棟・外来師長、医事係スタッフとともに今後の医療連携のあり方を毎月検討している。近年、より一層地域連携が必要とされており、当院においても顔と顔の見える連携を基本に病診連携・病病連携をはじめ、地域の機能分化による患者中心の医療に心がけ、地域の先生方からのご指導を頂きながら努力していきたいと考えている。

2. 紹介・逆紹介率の推移

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
紹介率	45.3%	43.2%	51.2%	48.8%
逆紹介率	29%	19.1%	16.8%	34%

＊逆紹介率は旧算定方式による



3. 医療連携室業務内容と件数

平成23年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
本人家族との面談	156	125	182	296	185	335	239	202	196	208	178	186	2,488
転院に関する件	235	198	216	340	257	472	339	419	220	286	295	278	3,555
在宅に関する件	35	21	45	97	51	100	61	39	49	60	54	50	662
その他の相談・苦情	100	60	87	44	168	115	122	99	73	66	91	72	1,097
合　計	526	404	530	777	661	1,022	761	759	538	620	618	586	7,802

4. 今後の取り組み

当院では、患者さんが身近で信頼のできる医院や診療所等の「かかりつけ医」をもつことを推奨している。入院や検査が必要な場合は、かかりつけ医の先生から当院の医療連携室へご連絡、ご紹介をいただければ、外来診療の予約を行っている。

地域の先生方との連携を図りながら、今後地域医療支援病院をめざして努力していきたい。

（地域医療連携推進担当課長　阿比留 悦子）

輸血療法委員会

委員長：副院長　野口 雅夫

1. 輸血療法委員会の紹介

輸血療法委員会は、規約で「適正な輸血療法を行うために必要な事項を審議する」（規約第1条）ことを目的に当院に設置されています。

委員会の「所掌事項」として、(1) 血液製剤の安全かつ適正な運用に関する事項、(2) 血液製剤の管理に関する事項、(3) 血液製剤使用による事故防止に関する事項、(4) その他院長が必要と認めた事項、について「審議する」（規約第2条）とされています。

委員会の平成23年度の組織は、副院長（野口※検査科部長）、診療科医師：麻酔科（金色）内科（白土）外科（新山）脳神経外科（野田）小児科（神薗）整形外科（乗松）、薬剤科薬剤師（姫野）、看護科副総看護師長（吉國）、看護師長（松本、兼田）、医療安全管理（古川）事務局管理課長（藤）、臨床検査科総技師長（西本）、臨床検査科技師（實藤）で構成し、委員会の委員長は野口副院長、副委員長は金色麻酔科部長です。

2. 輸血療法委員会の現状と活動状況

2011年の委員会開催と主な議題は以下の通りです。

・「平成22年度第5回輸血療法委員会」（1月7日）
　議題 (1) 輸血用血液製剤使用実績、(2) O型緊急輸血（マニュアル、説明書、輸血検査申込伝票、RCCの在庫）、(3) その他
・「平成22年度第6回輸血療法委員会」（3月4日）
　議題 (1) 輸血用血液製剤使用実績・輸血管理料、(2) O型緊急輸血、(3) アンケート集計結果（厚生労働省・TRALIについて、福岡県輸血療法合同会議）(4) その他
・「平成23年度第1回輸血療法委員会」（5月6日）
　議題 (1) 平成22年度輸血用血液製剤使用実績、(2) アルブミン製剤の使用状況及び輸血管理料、(3) 新・輸血検査申込伝票の使用に伴うコンピュータークロスマッチ、(4) O型緊急輸血症例、(5) 輸血療法委員会規約一部改正
・「平成23年度第2回輸血療法委員会」（7月8日）
　議題 (1) 輸血用血液製剤使用実績、(2) O型緊急輸血症例、(3) 血液型Wチェックの徹底、(4) 厚生労働省からの通達、(5) 日赤からの遡及調査、(6) 輸血療法委員会規約一部改正
・「平成23年度第3回輸血療法委員会」（9月2日）
　議題 (1) 輸血用血液製剤使用実績、(2) 輸血申込書の新伝票の順次移行、(3) T&Sの運用、(4) 輸血実施手順書の改訂
・「平成23年度第4回輸血療法委員会」（11月4日）
　議題 (1) 輸血用血液製剤使用実績、(2) O型緊急輸血症例、(3)「輸血実施手順書」の改訂、(4)「輸血拒否患者への対応に関するガイドライン」検討

3. 今後の方向性

血液製剤の適正使用、廃血率の改善、輸血管理料、電子カルテへの対応など、輸血業務の更なる充実に向けて取り組んでいきます。

（臨床検査科　松本 誠也）

褥瘡対策委員会

委員長：副院長　伊藤 重彦

1. 診療報酬改定と褥瘡対策のこれから

平成24年度保険診療報酬改定では、入院料などの施設基準の通則に「褥瘡対策」の実施が組み込まれ、入院基本料や特定入院料をいずれも11点引き上げられましたが、従来の「褥瘡患者管理加算」（入院中1回20点）が廃止となりました。

褥瘡対策として医療機関では、専任の医師と、褥瘡看護の臨床経験がある専任の看護職員による対策チームを設置し、チームによる適切な計画の作成と、実施・評価のための体制整備を図る。チームのメンバーによる対策委員会については、定期的に開催されるのが望ましいとされています。

つまり、これまでは、褥瘡患者管理は、特別な対策であって、これを実施している病院には加算をしましょうということであったものが、これからは、褥瘡患者管理はもはや基本的なことであり、保険診療を行う病院である以上、これらの対策はとれていて当たり前だととらえられるようになったということです。

褥瘡対策チームの活動の成果により、褥瘡の発生や重症化が減少してきています。これからは、チームのメンバーだけでなく、病院全体、さらには患者、家族も含めて褥瘡対策を行えるよう、チームとしても活動の幅を広げていきたいと考えています。

（形成外科 主任部長　田崎幸博）

2. 看護科褥瘡対策委員会の役割と活動内容

褥瘡対策チームが立ち上がり8年が経過しました。褥瘡のリスク評価や創の評価用紙を作り上げることから始まり、マニュアルの作成、看護科の褥瘡研修やラウンドの開始と年々活動内容が深まっています。

平成23年度看護科の褥瘡対策チームは、目標を①褥瘡対策に関する知識技術を向上する、②新規褥瘡発生率2.0%以下と掲げ、データー分析、研修、ラウンド、ニュースの発行を行いました。平成23年度の新規褥瘡発生率は1.6%で（小児科は除く）、年々下降し活動の成果が表れてきました。体圧分散枕やマットレスなどの褥瘡予防グッズが少ない中の看護科スタッフの頑張りといつもラウンドに参加してくださる医師、栄養管理科、薬剤科の方々の貴重なご意見の賜物と思います。また、患者さんやご家族に褥瘡について理解していただくためにパンフレットの作成を行い、平成24年4月に完成しました。病棟で行っている予防ケアの目的の説明や退院時のケア指導に活用していきたいと考えています。

看護職員の褥瘡に対する知識は増えてきましたが、発生原因やケアへのアセスメントがまだ十分ではありません。平成24年度もラウンドを通し、アセスメント力向上、看護力向上を目指していきます。

（褥瘡対策チーム 看護科 委員長　髙澤 浩美）

センター連絡会議

議長：副院長　伊藤 重彦

1. センター連絡会議の目的

当院は、北九州市および近隣地域の1次～3次救急医療を担う中核施設です。現在救急を担当するセンターとして、成人の3次救急を担当する救命救急センター、小児の1次～3次救急を担当する小児救急センター、成人の1次救急を担当する第2夜間・休日急患センター、それに消化器疾患を担当する消化器・肝臓病センターがあります。

（救命救急センター長　伊藤 重彦）

2. センター連絡会議での救急外来の役割

救急外来は、看護師長13名（小児救急認定看護師1名を含む）、看護師17名、夜間専門看護師6名の総勢36名のスタッフで構成し、救命救急センター、第2夜間・休日急患センター、小児救急センターを担当、365日24時間体制で小児を含む1次から3次までの救急患者に対応しています。

毎週火曜日、8時10分より救急本部にて行われるセンター連絡会議では、1週間の救命救急センターおよび第2夜間・休日急患センターにおける診療状況、各科別入院数、病棟別入院数、救急車搬送数などの患者動向を先週および前年度数と比較し報告しています。さらに、CPAで搬送された患者さんの転帰やドクターカーの出動状況、患者転送や警察および精神科関連に関する事項等、細かな情報を提供、各診療科医師やコメディカルとの情報の共有に努めています。

（看護科 副総看護師長　吉國 佐和子）

3. センター連絡会議に参加して

救急ワークステーションは、平成20年からセンター連絡会議に参加しています。会議自体は短時間ですが、関係各部署から一週間の活動を簡潔にまとめた説明で病院（救急や小児）の流れが年間を通じ、週毎に細かく理解することができ、日頃から八幡病院救急部門の連携が図れ、調整等に余念がないからだと感じています。

また、私たち消防機関にとって、救急搬送件数やCPA症例の転帰などの情報はとても貴重です。特にCPA症例では、救急隊が行った特定行為等の処置から院内で行われた救命処置が系統的に理解でき、そのことを参考にしながら搬送した救急隊に助言や指導を行っています。

インフルエンザ等感染患者動向の情報がリアルタイムに得られることで、どの様な感染症が流行しているか把握でき、救急隊員に感染予防の注意などを促すことに役にも立っています。救急外来でのトラブルや問題点等に対しても、速やかな対応、対策を立てておられ、救急隊としても活動しやすい状況です。

これからもセンター会議に参加し、情報を共有することで、八幡病院と消防機関が協力していければと思っています。

（北九州市消防局救急課　板山 隆志）

災害対策チーム委員会

委員長：副院長・統括DMAT　伊藤 重彦

1. 災害対策チーム委員会の目的

災害対策チーム委員会は2005年の西方沖地震を契機に設置されました。当初の目的は、災害拠点病院としての広域災害時の初動体制と後方支援体制の整備、災害派遣医療チームの出動体制、災害時対応マニュアルの作成、職員向け医療救護訓練などでした。現在は、日本DMAT3チームを持つ北九州地域の医療チームを統括するコマンダー施設として、災害時医療救護活動の中核を担っています。また、チームメンバー全員が災害医療研修センターのスタッフとして、災害医療全般の教育・訓練・研修活動に携わっています。

（統括DMAT　伊藤 重彦）

2. 看護科災害対策チーム委員会の取り組み

院内災害対策チームの看護部会として、平成24年3月に看護科災害対策チーム委員会を発足しました。災害拠点病院である北九州市立八幡病院の看護職員の災害に対する意識の向上と災害時の迅速な対応の習得を大きな委員会の目的とし、院内DMATを中心に看護師長以下19名の看護職員で構成されています。

委員会の主な活動として、以下の4点を重要課題としております。

①看護科職員の災害に関する研修の企画および運営
②災害対策マニュアルの周知と部署内の災害訓練の実施
③災害時アクションカードの改定
④部署間の災害対策の取り組みに関する情報交換

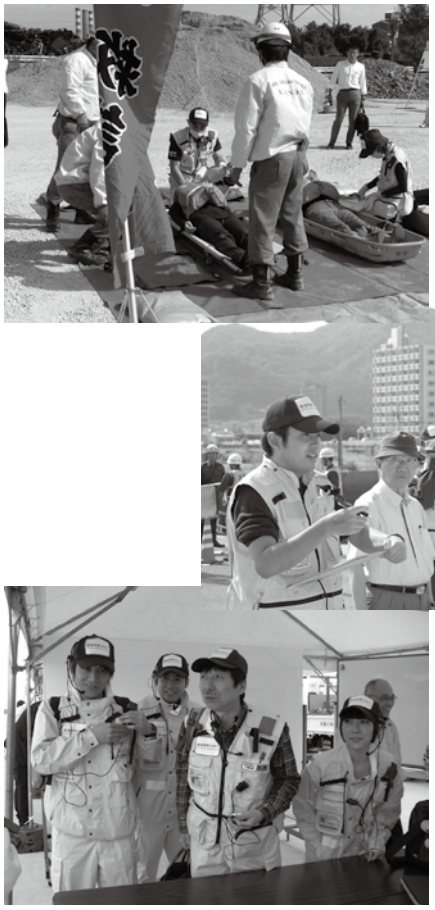
当院は、救命救急センターを併設しており、365日24時間体制で災害時の後方支援病院の役割も担っています。その看護科職員として即応できる体制つくりと、何時起こるかわからない災害時に迅速かつ効果的な救護活動が出来るよう、委員会が中心となって訓練や研修に取り組んでいきたいと思います。

（副総看護師長　吉國 佐和子）

3. 災害訓練に参加して

災害対策委員として災害教育やDMATに関わり、早5年が経過しました。毎年、院外の訓練に年に3回は参加し、また院内教育では指導者として携わっています。平成23年12月には、小倉北区東港で行われた救急救助技術発表会に参加しました。この訓練は、消防と医療の連携を図り、安全・確実・迅速な救急救助活動を目的として行われるものです。当院は、岸壁に転落した車内から救出された傷病者をトリアージし、救急処置を行うという訓練であり、消防との連携の重要性を改めて実感した内容となりました。当院は、災害拠点病院であり、消防や他施設との連携は欠かせないと実感しました。平成23年、当院に災害医療研修センターが設立され、これを機に北九州市全体の災害に対する知識や技術の向上に関与し、いつ起こるか分からない災害に対して備えていかなければならないと考えています。そのためには、一番のマンパワーとなる院内の看護師の教育と訓練を充実させていきたいと考えています。

（看護科 DMAT隊員　橋本 真美）



院内災害訓練研修会の様子

NST運営委員会

委員長：麻酔科主任部長　金色 正広

すでに言葉も広まってきているようですが、NSTとは“栄養サポートチーム”のことです。

八幡病院NSTは2005年に活動を開始し、2008年からは日本静脈経腸栄養学会の認定するNST認定施設となりました。

NST活動のコアとなる運営委員会のメンバーは各病棟医師（もしくは病棟医師の指名する医師）各病棟看護師の他、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師など各職種からなり、リンクスタッフとして活動を引っ張ってくれています。

活動の目標は、栄養不良の患者を見逃さない栄養スクリーニングの徹底と栄養不良患者への適切な栄養療法のサポートすることであり、そのために

・栄養に関する知識・技術を啓蒙する
・NST活動を有効に効率的に行うための方策の検討する
・活動結果を分析し報告する

を活動の3本柱としています。

具体的には、毎週火曜日をNSTの日と位置づけ、12：30から30分間、昼食を食べながら、またお菓子やコーヒーとともに行う勉強会：ランチタイム・ミーティングを行っています。ここでは全職員対象に、栄養に関するミニレクチャーや研究会報告、また製薬会社MRさんによる栄養・消化器系に作用する薬の説明や、各種経腸栄養剤の説明や試飲、栄養に関わる医療器具の正しい使用法の勉強会などを企画し楽しく行っています。

13：00からはNSTラウンドです。ラウンド依頼をいただいた患者さんの病棟へ伺い、担当医、担当ナースから困っている点や食事内容等を聞き、実際に患者さんのお話を伺い、少しでも栄養状態の改善ができるよう多職種のスタッフで検討、サポートしています。

活動の評価・検討は適宜委員会内のスモールグループで行っており、毎月第4火曜日にNST運営委員会を開催することによって活動内容をメンバーで共有しています。

様々な疾病、外傷に対する治療を栄養という側面から支えるNST活動の重要性および必要性は理解されてきていますが、現実問題としては栄養以外にも感染・褥瘡・転倒防止・・・など様々な評価の必要性が増えていったり、限られたマンパワー、多くの業務のなかで栄養のことまで十分に手が回らず浸透して行き辛いところがあります。できるだけスタッフの負担にならないよう心がけ、形だけでなく、あくまでも患者のためになるよう地道に活動しています。

（委員長　金色 正広）

臓器提供のための対応委員会

委員長:副院長　伊藤 重彦

1. 委員会の目的

当院は脳死下の臓器提供施設（救命救急センター、日本脳神経外科学会の専門医訓練施設（A項））です。心停止下の臓器提供の経験はありますが､脳死下臓器提供の経験はいまだありません。臓器移植法改正により、臓器提供希望が増えそうですが、小児の脳死判定、虐待有無の判断など解決すべき問題も多いようです。臓器提供のための対応委員会では、脳死判定員会、児童虐待早期発見・対応委員会と連携しながら、脳死下の臓器提供に関する諸問題を検討しています。

（委員長　伊藤 重彦）

2. 院内コーディネーター（Co）の立場から

移植法改正後の脳死下の臓器提供は以前より多くなり、昨年は北部九州でも脳死下移植が実施されました。当院は救命救急センターであり、心停止下および、脳死下の臓器提供施設です。臓器提供の意思表示があったとき、本人とご家族の尊い意思と決断を尊重し、円滑に臓器提供が行われ意思が無駄にならないようにすることが重要です。

臓器提供のための対応委員会は、関係診療科、看護科、検査科、事務局など院内関係者に加え、外部委員として臓器移植ネットワークの方に参加していただき、事例が発生したときに円滑な臓器提供がおこなわれるように体制作りを行っています。看護科では、救急・集中治療室・手術室看護師長が院内コーディネーターとして参加しています。

院内コーディネーターの平時の役割は、(1) 臓器提供マニュアルの作成や改訂、臓器提供における課題と対策の検討など院内体制の整備、臓器提供・移植に関する情報提供や研修会の開催など普及啓発などが挙げられます。臓器提供事例の発生時には、中立的な立場での家族対応、提供施設側の医師・看護師・コメディカル・事務など院内関係者と都道府県コーディネーター、摘出チーム、警察など院外関係者との窓口となり調整する役割があります。また、3ヶ月に1回、福岡県院内移植コーディネーター連絡協議会に出席し、移植に関する学習や意見交換などを行い、知識を深めると共に県でのネットワーク作りを行っています。

当院は、脳死下臓器提供において、ハード面、ソフト面で課題がありますが、職員の移植医療に関する意識を高めつつ改善に向け努力していきます。

（院内 Co 責任者 看護師長　兼田 朋子）

リハビリテーション部門委員会

委員長：副院長　野口 雅夫

当委員会は、リハビリテーション室の円滑な運営を協議するため置かれたものです。目的は、(1) リハビリテーション部門の体制を確立する。(2) リハビリテーション部門を担当する医師、専門職種間の連携、協力体制を整備する。(3) リハビリテーション部門の業務等を改善する。というようなことが挙げられます。

現在は野口副院長を委員長とし、構成員は、辻（整形外科部長）、越智（脳神経外科部長）、末永（内科部長）、田中（循環器内科部長）、肥後（東5病棟看護師長）、後藤（西5病棟看護師長）、高本（西6病棟看護師長）、波多野（脳卒中リハビリテーション認定看護師）、川崎（事務局）、井上（理学療法士長）、和才（理学療法士）、菖蒲（作業療法士）、その他委員長が必要と認める者となっています。

これまで、機能評価を見据えての改善を行なってきました。特にマニュアルの整備や書類の整備を重点的に行いました。また他部門との情報伝達がスムーズに行えるよう、カンファレンスの開始、病棟とリハビリテーション室間の連絡ノートやリハビリテーション要旨の作成など、積極的に改善を図りました。

2011年はほぼ2ヶ月に1度、計6回開催し、業務の改善などを検討してきました。主な議題としては、(1) マニュアルなどの作成、指示箋・診療録・会計伝票の流れなど、リハビリテーションにかかわる院内のシステムを整備 (2) 他部門との連携を充実させるための方法の模索 (3) リハビリテーション業務改善を図り、出来ることから実行し、それに向けての他部門の協力を求めることでした。

今年度は、ベッドサイド訓練や外来リハを必要に応じて毎日行うようにしたことや、自宅退院当日のリハビリテーションも行えるようにしました。また退院へ向けての調理実習訓練を開始しました。リハビリテーション訓練時にはズボンの着用が望ましいため、上衣と下衣に分かれた病衣を導入しました。また、北九州市大腿骨近位部骨折地域連携パススタートへの関与や、重点的にリハビリテーションが必要な患者の1日2回リハビリなども開始しました。

呼吸器疾患のリハビリテーションに関しては「呼吸器リハビリテーション（I）」の届け出を行い、2011年9月より算定開始となりました。

心大血管リハビリテーション（I）は現時点でのリハビリテーションスタッフ関与はありませんが、将来的には理学療法士が参入すべきと考え、理学療法士の増員も含め、これからの大きな課題です。

言語聴覚士（ST）の採用は病棟から強い要望が出ています。当院での嚥下訓練の必要性、重要性の観点からも早急な対応が必要です。

今後の方向

呼吸器・心大血管リハビリテーションへの適応拡大やSTの採用を含め、リハビリテーション部門のさらなる充実化を図るため、諸問題を検討し改善していきたいと考えています。

（リハビリテーション室　井上 裕子）

内視鏡部門委員会

委員長：外科主任部長　木戸川 秀生

現在当院内視鏡検査は年間約1200件から1300件の施行件数である。過去5年間の推移を見てみると上部消化管は1500件から800件台へ、下部消化管は578件から317件へそれぞれ56%、54%へ件数が減少している。これは2009年に消化器内科医師が不在となりすべて外科にて行っていたためと考えられる。2010年からはふたたび消化器内科医（白土睦人医師）が赴任し、徐々にではあるが件数の増加が見込まれる。また現在火曜日と木曜日の午前中、内視鏡専門医が戸畑共立病院より内視鏡専門医を派遣していただいている。一方、気管支鏡件数は2007年から8倍の伸びを示している。

当院にはこれまで共通の消化器内視鏡同意書が存在しなかったため、今回複写式の同意書を作成した。これによって、同意書取得が容易になり同意書なしの検査が少なくなると思われる。

現在の内視鏡レポートシステムは内視鏡室のPCからのみしか入力できない。内視鏡検査は複数箇所で可能であるが、一つのPCが占有されてしまうと入力ができなくなる。しかもレポート自体はネット上のPCから閲覧することができないのではなはだ不便である。今後は内視鏡レポートシステムを新たに導入し放射線画像ネット上で入力・閲覧することを可能にしたい。

［2011年活動報告］

上部消化管内視鏡の同意書作成

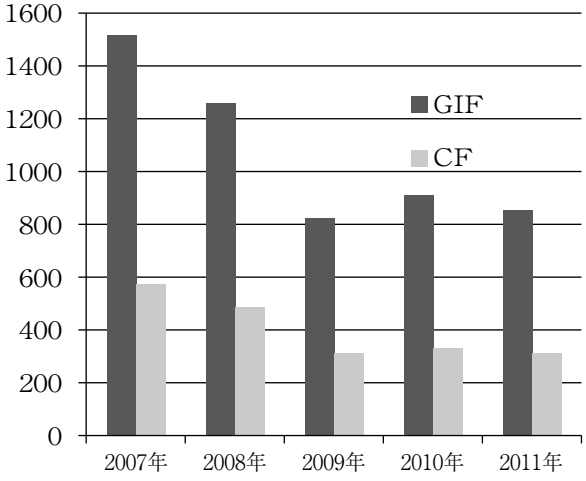
ミンクリア採用

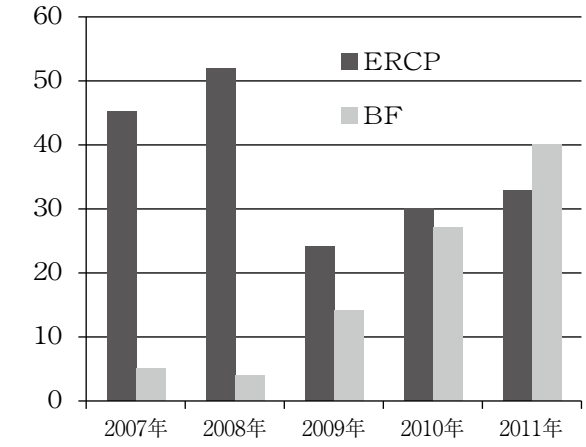
内視鏡認定看護師試験に2名受験合格

［関連施設認定］

日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本気管支学会認定施設

年間症例数の推移





［2011年導入機器］

●大腸内視鏡:【CF-H260AZI】ハイビジョン対応CCD 広角視野に電動式光学ズーム機能 搭載

●細径大腸内視鏡:【PCF TYPE Q260AZI】細径の大腸内視鏡に、拡大観察機能・硬度可変機能・ウォータージェット機能搭載

●上部消化管内視鏡:【GIF H260Z】ハイビジョン対応CCD・光学85倍ズーム機能・ウォーター ジェット機能搭載

●MAF TM （ポータブルBF） 2.5型液晶モニター・xDピクチャーカードによる静止画、動画の記録・白色LED光源内臓

●UCR 内視鏡用炭酸ガス送気装置

●CIV-260SL NBI機能搭載光源装置

（委員長　木戸川 秀生）

がん化学療法委員会

委員長：副院長　伊藤 重彦

1. 委員会活動の目的

この委員会は、2010 年 4 月にできた新しい委員会です。各診療科が独自に行ってきた化学療法を見直し、レジメン登録制度と手技・手順を標準化することで、医療安全、感染対策、薬剤管理の面から有用と考えています。

（委員長　伊藤 重彦）

2. がん治療医師の立場から

現代の悪性疾患に対する化学療法は複雑となり、様々な領域の専門家による集学的治療により最善かつ最新の治療が施されます。当院では 2011 年 8 月より抗癌剤ミキシングを薬剤科調剤室にて一括して行うこととなり、内科、外科、小児科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産科婦人科、皮膚科、等の各科において外来、入院での投与を問わず使用する全レジメンをあらかじめ薬剤科にて登録し集中管理を行うこととなりました。これを機に個々のレジメンに対しその妥当性の根拠、安全性、管理における留意点等を客観的に評価して施設としての安全かつ円滑な抗癌剤治療を行うことを目的に、がん化学療法委員会が設立されました。委員会は数月毎に施行され、伊藤副院長、各科主任部長、がん治療認定医、がん薬物療法認定薬剤師により構成され、主に期間中新たに登録された化学療法レジメンの紹介、並びに再評価を行うことを目的としております。認定医は基盤学会より厳正な審査にて認定され、その役割として多岐にわたる各科共通の臨床腫瘍学および基本的技術に習熟し医療倫理に基づいた治療を実践するべく、各科より申請されるレジメンをその都度評価、確認したうえで登録を行う、といった活動を行っております。

（がん治療認定医　山吉 隆友）

3. 薬剤師の立場から

抗がん剤の過剰投与や誤投薬による医療事故、重篤な副作用の報告が散見されている。がん化学療法の中心となる抗がん剤は、一般的に毒性が強く、適切に使用しなければ、致死的な有害反応を招く。当院薬剤科では 2011 年 8 月から抗がん剤無菌調製を開始した。医療安全を確保するためには、がん薬物療法の根幹をなすレジメン管理が重要である。標準治療と評価されているレジメンでも、全身状態が不良な状態では、有害反応が強く出現し、十分な効果が得られない場合がある。また、皮膚障害や脱毛などの致死的でない有害反応によっても心理的ダメージを受けることもあるので、事前に有害事象が起こりうる事を情報提供する必要がある。薬剤科では外来化学療法を受ける患者に対し、該当レジメン初回施行時に投与計画と起こりうる有害事象についてリーフレットを用いて説明している。院外医療機関への情報ツールとしてのお薬手帳に治療レジメンの情報を添付している。また承認されたレジメンについてがん化学療法委員会ニュースとして医療スタッフに情報を発信している。多職種ががん薬物療法に参画し、患者教育や患者からの要望を把握することにより、医療安全の充実を図っていきたい。

（がん薬物療法認定薬剤師　原田 桂作）

広報委員会

委員長:副院長　伊藤 重彦

1. 委員会紹介

平成19年北九州市立八幡病院広報委員会の活動が開始しました。委員会は、委員長である副院長を先頭に、診療科医師2名、薬剤科・臨床検査科・放射線科から各2名、副総看護師長1名、看護科12名、事務局2名の委員から構成されています。

地域住民・患者の皆様そして各医療機関に、当院のサービス・取組み内容を知っていただくとともに、地域の医療機関との連携を強化するため、広報誌「さらくら」「八幡病院ニュース」、そしてホームページの作成を主な活動として取り組んでおります。

（副総看護師長　林 和子）

2. 広報誌「さらくら」発行の中で思うこと

広報誌「さらくら」は主に地域の各医療機関を対象に、年3回発行しております。

ここ数年、近隣の連携医療機関の先生方のご協力をいただいて、1ページ　1,000字ほどの原稿をお願いしています。大変お忙しい中、快くお引き受け下さり、毎度の事ながら医師同士の絆の深さを思い知らされます。

病院を訪問させていただく際、どちらへ伺ってもいつも感じるのは「清潔さ」です。整理整頓や行き届いた清掃に限らず、スタッフの皆様の対応やお待ちになっている患者様の表情にも見て取れます。私ども市立病院のスタッフも、ご来院のすべての皆様へのサービス向上のため、見習うべきところがとても多いと感じています。

この「さらくら」という広報誌を通して、そういった心持ちがひとりひとりに浸透してゆけば、地域全体を巻き込んだより良い医療へ繋がるのではないかと考えています。

（放射線科　辰本 直久）

3. 広報誌「八幡病院ニュース」発行にあたって

八幡病院ニュースは患者・家族の方々を対象とし、平成23年度より年2回から4回の発行となりました。活動は忙しくなりましたが、その時期に発症しやすい疾患や当院に関わる最新情報などをこれまでより内容豊富に、タイミングよく提供することができます。各部門の編集者が日々の業務の中で得た患者さんやご家族の疑問等の情報をもとに掲載記事の企画を行い、役立ててもらえる事を意識して編集しています。また、感染症のコーナーを設けて、患者さんやご家族に役立つ感染予防対策、時期的に流行する疾患、普段あまり知られていない感染症の話などをわかりやすくICT委員会から紹介しています。さらに、スタッフ紹介では、病院スタッフのプロフィールを紹介する事で、患者さんやご家族により身近な存在に感じて頂けるように連載しています。また、病院の取り組みなどを紹介して、より理解を深めて頂けるように努めています。

（看護科　安部 環）

4. 広報委員会 Web 担当

広報委員会 Web 担当は5名のメンバーで活動しております。現在八幡病院の Web サイトは病院局サイトと八幡病院独自サイトの2つを併用して運用しております。11月に新しいソフトを購入し八幡病院独自サイトを一から作り直しました。また消化器肝臓病センター、災害医療研修センターのページを作成してます。今後は各診療科・各部署をふくめて独自サイトに移行し画像等を多用した見栄えのある魅力的なサイトを構築することを目指します。

5. 業務

1）八幡病院ホームページ（病院局 Web）の更新
2）北九州市立八幡病院（www.yahatahp.jp）の更新

（外科主任部長　木戸川 秀生）

6

各種学会指導医・専門医・認定医一覧

認定修練施設

臨床研修指定病院
日本内科学会認定教育関連病院
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会研修関連施設
日本神経学会認定教育関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本外科学会専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本胸部外科学会認定施設
日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
日本小児科学会専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
日本眼科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔指導病院
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本超音波医学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本プライマリケア学会認定研修施設

各種学会指導医・専門医・認定医

日本内科学会

認定医　粟屋　幸一、末永　章人、
吉田　有吾、白土　睦人、
田中　正哉、小住　清志、
今村　香奈子

日本循環器学会

専門医　太﨑　博美、田中　正哉、
小住　清志

日本インターベンション治療学会

認定医　原田　敬

日本神経学会

専門医　末永　章人

日本呼吸器学会

指導医　粟屋　幸一
専門医　吉田　有吾

日本感染症学会

指導医　粟屋　幸一

日本消化器病学会

指導医　岡本　好司
専門医　白土　睦人

日本肝臓学会

指導医　岡本　好司
専門医　白土　睦人

日本外科学会

指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生、　山吉　隆友
専門医　井上　征雄、新山　新

日本消化器外科学会

指導医　木戸川　秀生、野口　純也
専門医　山吉　隆友、岡本　好司
認定医　伊藤　重彦
消化器がん外科治療認定医
岡本　好司、木戸川　秀生
野口　純也

日本胸部外科学会

指導医　伊藤　重彦

日本呼吸器外科学会

専門医　井上　征雄

日本肝胆膵外科学会

高度技能指導医

岡本　好司

日本内視鏡外科学会

技術認定医

木戸川　秀生

日本呼吸器内視鏡学会

指導医　伊藤　重彦

日本消化器内視鏡学会

指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生

専門医　白土　睦人、山吉　隆友

日本小児科学会

臨床研修指導医

市川　光太郎、天本　正乃、
神薗　淳司、松島　卓哉

専門医　牧　隆司、石橋　紳作、今村　徳夫、
山根　浩昌、西野　裕、志村　紀彰、
富田　一郎、富田　芳江、
小野　友輔、小野　佳代

日本血液学会

専門医　神薗　淳司

日本小児外科学会

専門医　新山　新

日本脳神経外科学会

専門医　越智　章、岩永　充人、野田　満

日本脳卒中学会

専門医　岩永　充人

日本脳神経血管内治療学会

専門医　岩永　充人

日本整形外科学会

専門医　野口　雅夫、辻　正二、乗松　崇裕、
野崎　義宏

日本形成外科学会

専門医　田崎　幸博

皮膚腫瘍外科指導専門医

田崎　幸博

日本熱傷学会

専門医　田崎　幸博

日本創傷外科学会

専門医　田崎　幸博

日本眼科学会

専門医　武末　佳子

日本泌尿器科学会

指導医　森下　直由

専門医　岡田　英一郎

日本耳鼻咽喉科学会

専門医　麻生　裕明

日本麻酔科学会

指導医　金色　正広

専門医　石田　昌一、佐野　治彦

日本医学放射線学会

専門医　神崎　修一、今福　義博
今村　紹美

日本超音波医学会

指導医　神崎　修一

日本IVR学会

指導医　神崎　修一

肺がんCT検診認定機構

認定医　神崎　修一、今村　紹美

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

検診マンモグラフィ読影認定医

今福　義博、今村　紹美

日本救急医学会

専門医　　伊藤　重彦、木戸川　秀生

日本精神神経学会

専門医　　白石　康子

日本皮膚科学会

専門医　　藤野　雅世

日本産婦人科学会

専門医　　王　志洪

日本乳癌学会

認定医　　岡本　好司、今村　紹美

日本がん治療認定医機構

暫定教育医

岡本　好司

認定医　　山吉　隆友

ICD制度協議会

インフェクションコントロールドクター認定医

伊藤　重彦、木戸川　秀生

山吉　隆友

日本医療機器学会

認定MDIC

金色　正広

厚生労働省

麻酔科標榜医

金色　正広、石田　昌一

佐野　治彦

統括DMAT登録者

伊藤　重彦

日本医師会

認定産業医

田中　正哉、小住　清志、

小住　乃理子、今村　香奈子

辻　正二、白石　康子、野口　純也

金色　正広、佐野　治彦

7

編集後記

編集後記

北九州市立八幡病院　診療年報第1号をお届けします。

本誌の前身となる「北九州市立病院年報」は1991年3月に創刊号（1990年業績）を刊行しています。当時は6病院（小倉病院、門司病院、若松病院、戸畑病院、八幡病院、松寿園）の業績を一冊にまとめて刊行しておりました。その後、松寿園、戸畑病院、門司病院、若松病院が廃院や譲渡となり2011年には八幡病院と医療センターの2病院だけとなりました。そのため市立病院としての年報は2010年までとし、今回2011年からはそれぞれの病院で刊行することとなりました。

今回より八幡病院単独の病院年報となったため、業績集に加えて　1.クローズアップ　2.委員会報告　3.統計資料　4.専門医リスト　5.職員リストなどを付け加えました。また色々なアイデアがありましたら付け加えていきたいと考えております。

このたびは刊行が大変遅くなってしまい申し訳ありませんでした。広報委員会の年報編集委員一同、次年度からはもっと早期刊行できるよう努めていきたいと存じます。皆様方の御協力をお願いいたします。

（木戸川 秀生）

広報委員会委員長	伊藤　重彦（副院長）
年報編集委員長	木戸川秀生（外科）
年報編集委員	岡田英一郎（泌尿器科）
	福永　竜一（薬剤科）
	末吉　宏成（薬剤科）
	林　　和子（看護科）
	吉見　明子（看護科）
	隈部美由紀（看護科）
	蓑田　圭祐（庶務係）
	西原慎一朗（医事係）